週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1958
昭和33年

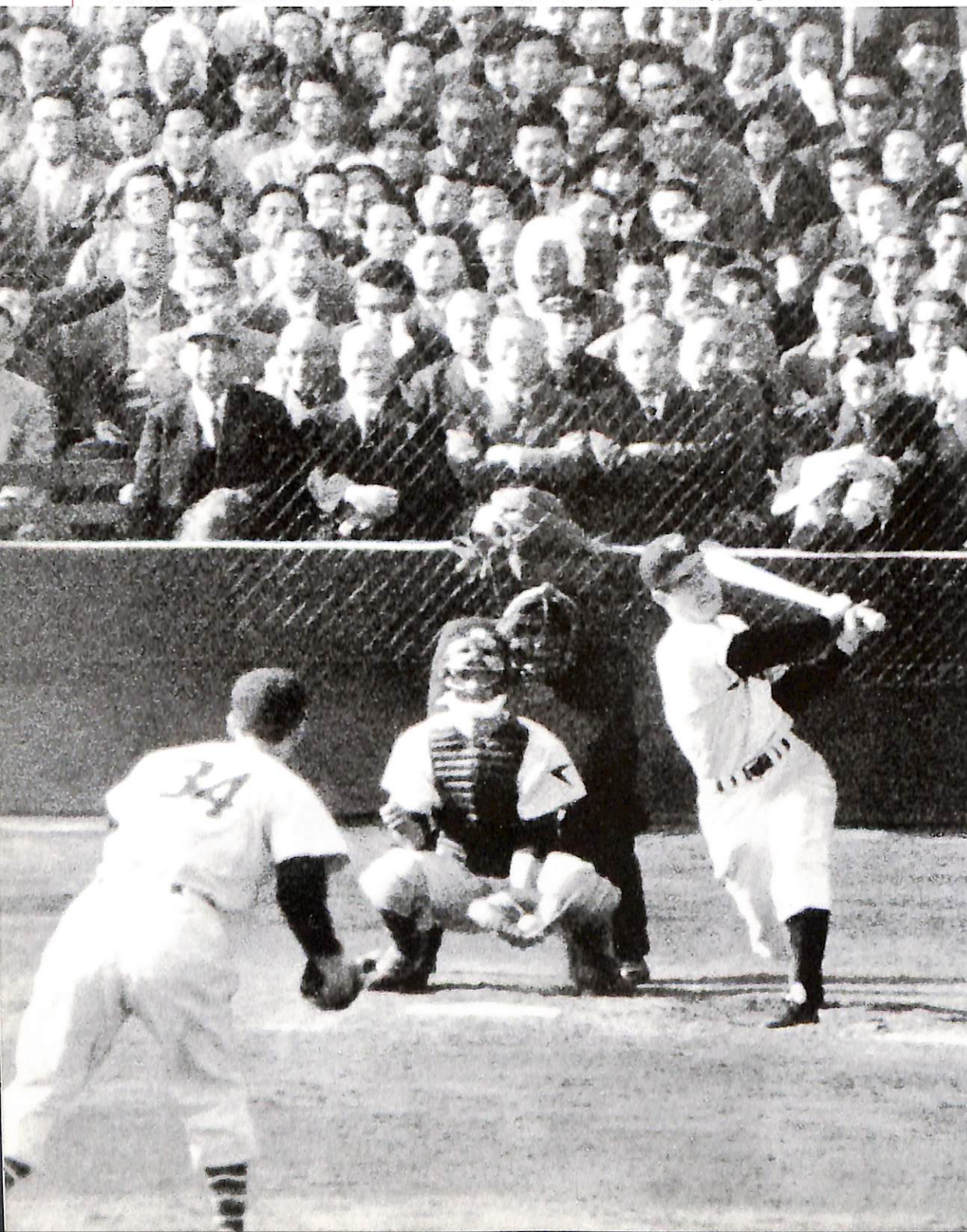
3|25
平成9年3月25日発行
(毎週1回発行)第1巻第6号
¥550
講談社

巨人軍 長嶋茂雄デビュー!

ロカビリー旋風、若者が見つけたスターたち
流通革命へ!スーパー・ダイエー1号店
"救国の英雄"ド・ゴール、仏大統領に

「バットにかすったのは、わずか1球」長嶋茂雄、球史に残る“4三振”デビュー！

時代は、新しいヒーロー、ヒロインの誕生を心待ちにしていた。この年4月にデビューしたルーキー長嶋は、たちまち球界の寵児となり、11月、皇太子の婚約者・正田美智子さんが話題をさらう。年末には、高度経済成長を予感させる世界一の鉄塔、東京タワーが完成した。

▼長嶋4打席4三振。金田は試合後、「それにしても思いっきり振ってくるやつじゃ。ええ打者や」とコメントした。　共同通信社

球界のエースと真剣勝負 堂々として悪びれぬ三振

昭和三三年四月五日、プロ野球ペナントレースが開幕した。巨人―国鉄（現・ヤクルト）戦の行われる東京・後楽園球場は四万五〇〇〇人の観客で超満員。

午後一時半、プレーボール。一回表、巨人の藤田元司投手（後に巨人監督）が無得点におさえると、その裏、国鉄の金田正一（二四、後にロッテ監督）がマウンドに立った。速球とスロー・カーブを武器とする金田は、前年まで七年連続の二〇勝投手。文字どおり球界のエース。先頭打者の与那嶺要と二番の広岡達朗（後にヤクルト、西武監督）が凡退したあと、この日、誰もが注目する長嶋茂雄（二二）が打席に立った。

立教大学二年生の秋から五シーズン連続でベストナイン（三塁手）に選ばれ、通算八本塁打は当時の六大学野球新記録。マスコミは長嶋を、「戦後の東京六大学が生んだ最高のプレーヤー」と呼んだ。

この新人は、オープン戦で各チームのエースを打ちこんで、七本のホームランを放ち、ますます注目を集めていた。

長嶋が打席に立った時、一番近くにいた国鉄の谷田比呂美捕手はマスク越しに、膝を注視した。プロ入りの初打席は、ほとんどの打者の足が震えるからだ。

◎表紙　立教大学グラウンドにて。　日刊スポーツ

●1957年、東京六大学秋季リーグ戦で、立教優勝の立て役者となった長嶋を、チームメイトが喜びの胴上げ。翌年長嶋は、杉浦、本屋敷とともに鳴り物入りでプロ入りする。
朝日新聞社

「バットにかすったのは、わずか1球」
長嶋茂雄、球史に残る"4三振"デビュー！

「ところが、長嶋さんは肩の力を抜くように二度三度、バットを上下させて構えた。その膝を見ると、ぴくりとも動かなかった」と語っている。

金田の第一球は内角速球。空振り。続いてど真ん中の速球。見送りのストライク。二―〇後の、ボールになったドロップ（縦に落ちるカーブ）はかろうじて見送る。四球目、内角高めの速球。長嶋はスイングしたが、バットは大きく空を切った。スタンドから、一斉にため息が漏れた。

四回裏の第二打席は二―三からカーブを空振りし、またしても三振。

「オヤッと思った」と谷田は言う。

「振りはあいかわらず鋭いが、ボールとバットの間がボール五個分くらいはずれている。噂ほどの選手じゃないという感じだった」

七回裏にまわってきた第三打席は、空振り、ファウル、空振りの三球三振。堂々として悪びれない三振だった。谷田は、この時、長嶋のスタンスの幅と足の位置を確かめて、思わずうなった。連続して三振すると、たいてい前の方にかぶったり、ピッチャー寄りに構えてあてようとするのだが、長嶋の足の位置は前の二打席とまったく同じだったからだ。

九回裏の第四打席は、二―三後にドロップを大きく空振りして三振に倒れた。この打席も足の位置は同じだった。

九回を終わって、巨人打線は金田の豪球におさえられていたが、国鉄も、毎回のようにランナーを出しながらタイムリー・ヒットが出ないまま0―0のまま延長戦に突入。

一一回表、国鉄は町田行彦の3ランなどで四点をあげ、その裏の巨人の反撃を一点におさえ、4―1で開幕戦を飾った。

プロ野球人気を牽引した絵になるプレーヤー長嶋

この日の長嶋―金田の対決は、長嶋の四打席連続三振。一九球のうち、バットにあたったのは、第二打席の三球目わずか一球（ファウル）だけだった。

この新人を期待の目で見守っていた満員の観客は三振のたびにため息をついたが、力いっぱいのスイングには目をみはった。捕手の谷田は「なみのバッターではない、と恐ろしさを感じた。カネやん（金田投手）も同じ印象だったと思う。連続三振に切ってとったが、顔は蒼ざめていた」と証言する。対金田の打率は、この年こそ一割七分九厘だが、翌年は三割三分三厘、通算で三割一分三厘、本塁打も一八本打っている。

三振しても絵になる長嶋は、守備でも、捕球しざま、一塁ベースを見ずに矢のようなランニング・スローを投げ、たびたび一塁手をあわてさせた。

長嶋と神宮球場（東京六大学野球）で一緒にプレーした、野球解説者の近藤和彦（明治大学出身・元大洋、近鉄選手）は、「あの神宮の熱気をそのまま後楽園に持ちこんだ。長嶋茂雄の明るいイメージが、プロ野球をぐんと飛躍させたと思います」と言う。

長嶋がデビューしたこの年は、一般家庭にテレビが普及し始めていた時期だった。画面に映し出された長嶋のはつらつとしたプレーは人々を魅了し、プロ野球の人気を国民的にする原動力となっていくのである。

「わが巨人軍は永久に不滅です」

▶長嶋、涙の引退挨拶　読売新聞社

昭和49年10月14日、巨人の最終戦が後楽園で行われた。長嶋茂雄の選手としての最終戦でもあった。

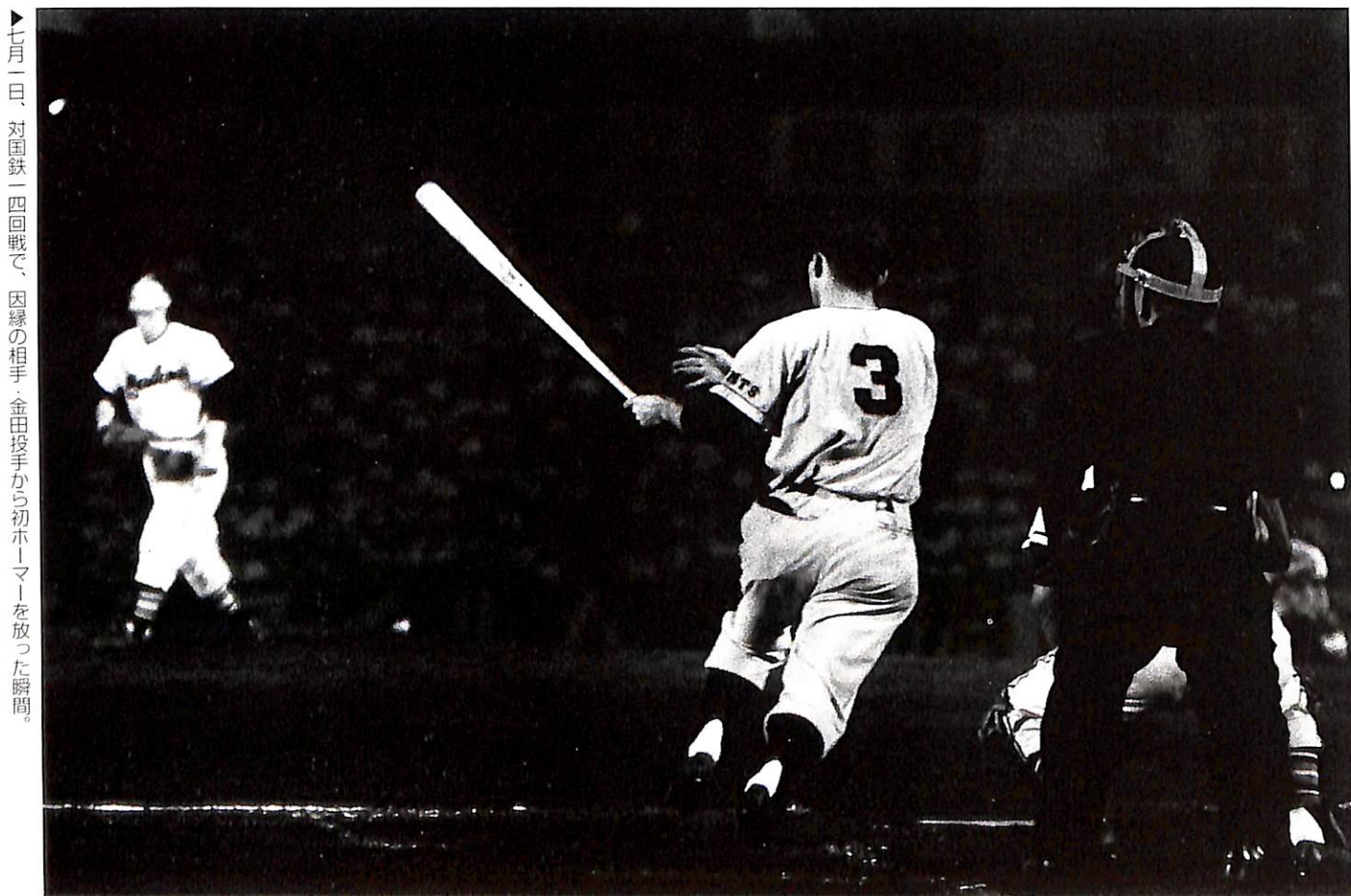
試合終了後の午後5時すぎ、スポットライトが薄暮のマウンドにあたると、背番号「3」のユニフォーム姿が浮かび上がる。スタンドは総立ちとなり、声援が飛ぶ。長嶋はマイクスタンドに向かって語り出した。

「昭和33年、栄光の巨人軍に入団以来、今日まで17年間、巨人ならびに長嶋茂雄のために、絶大なるご支援をいただきまして、まことに有り難うございました。今日まで私なりの野球生活を続けてまいりました。今、ここにみずからの体力の限界を知るにいたり、引退を決意いたしました」

いつもの甲高い声がくぐもり、引退の心境をにじませていた。しかし、来期から川上哲治の後を継いで、監督に就任する決意の言葉が続く。「私は、今日、引退しますが、わが巨人軍は永久に不滅です。今後、微力ではありますが、巨人軍の新しい歴史の発展のために、栄光ある巨人の、明日の勝利のために、さらに前進していく覚悟でございます」

挨拶を終えて、静かに頭を下げる長嶋の頬に涙が光っていた。

▶七月一日、対国鉄一四回戦で、因縁の相手・金田投手から初ホーマーを放った瞬間。　読売新聞社

▲4月13日、巨人―阪神戦9回表、第2号ホームランを打つ。報知新聞社　▼8月20日、巨人―中日戦でホームスチールに失敗。報知新聞社

若者たちが選んだスター 山下敬二郎、ミッキー・カーチス、平尾昌晃……
第一回「ウエスタン・カーニバル」の熱狂!

▲細いマンボズボン姿のロカビリー歌手が、激しいアクションで歌い出すと、女性ファンは熱狂し、客席と舞台がひとつになって沸きかえった。写真は、ファンにこたえるミッキー・カーチス。昭和33年2月の第1回日劇「ウエスタン・カーニバル」で。 毎日新聞社

ティーンエイジャーが、歌手の名前を絶叫し、失神するものまで現れるほど熱狂したロカビリー旋風。そのきっかけとなったのが、三三年二月八日から一週間、東京有楽町・日本劇場で催された第一回「ウエスタン・カーニバル」だった。太陽族が出現した二年後のことである。

若者たちは無名の歌手を一夜で大スターにした

二月八日の初日当日、日劇周辺は夜明け前から騒然としていた。かぶりつきに近い席を取ろうと、二〇〇〇人以上の女の子たちが劇場を幾重にも取り巻いたのだ。長蛇の列のあちこちから、お目あてのロカビリー歌手の名前を呼ぶ黄色い声が上がる。中には路上で踊り出す女の子までいた。そのため、警官が慌てて整理に駆けつけたほどだった。

夜が明けるとさらに列は長くなり、路上に沸き上がる歓声もますますボルテージが上がった。やむなく主催者側は、予定を二時間早めて開場。たちまち、リハーサル中のステージに向かって応援合戦の火ぶたが切って落とされた。

そして、いよいよ開演。女の子たちはハンカチを振りながら嬌声を上げる。テープや花束を投げ、ついにはステージに駆け上がって歌手の首に抱きついたり、ステージから歌手を引きずり下ろしたり、中には、はいていた下着を脱いで投げた強者までいた。

特に〝ロカビリー三人男〟と言われた平尾昌晃（二〇）、ミッキー・カーチス（一九）、山下敬二郎（一八）がステージに現れると、場内の興奮は絶頂に達した。〝三人男〟の一人、山下敬二郎はこの日の熱狂ぶりをこう振り返る。

「当時の音響装置も悪かったけど、お客のキャーキャーいう声で自分の声が聞こえないんですよ。歌じゃパンチを出せないと思うから、その分、体でぶつけるしかなかったんですね。よくしゃがみこんだけど、あれは格好つけてやったんじゃなくて、体がバテて立ちくらみしちゃうわけ。それで、しゃがみこんだんだ。ギターも腕力で掻き鳴らすといった感じで、しかも使っていたピックがセルロイド製だったもんだから、摩擦で煙が出たりしてね」

第一回「ウエスタン・カーニバル」は大成功をおさめ、初日は九五〇〇人、一週間で四万五〇〇〇人を動員。三月に新宿コマ劇場で再演したのをはじめ、この年だけで四回も開催され、東京に続いて大阪での公演も大成功だった。

とはいえ、出演者全員、第一回「ウエスタン・カーニバル」が開幕する前までは、銀座の「テネシー」「美松」、新宿の「ACB」、池袋の「ドラム」などのジャズ喫茶で熱狂的な人気を集めこそすれ、全国的にはほとんど無名に近かった。

▶ロカビリー旋風の仕掛人、渡辺美佐。

▲熱唱する山下敬二郎（昭和33年）。父は落語家・柳家金語楼。　シンコーミュージック提供

▲英国人の父を持つ異色歌手、ミッキー・カーチス。昭和35年10月の公演で。　時事通信社

彼らを発掘したのは渡辺プロの渡辺美佐（二九）だった。たまたま、ロカビリーファンだった妹の案内でジャズ喫茶に足を運んだところ、歌手と客とが一体となった熱狂ぶりに「これが新しい若者たちの音楽だ」と直感。大劇場に出演させようと日劇と交渉し、ようやく実現したのが第一回「ウエスタン・カーニバル」だった。これがきっかけで、日本全国にロカビリー旋風が巻き起こったのである。

六〇年代に入ると、業界主導の〝熱狂〟へ

前々年には「もはや戦後ではない」が流行語になり、それまで「冷蔵庫・洗濯機・掃除機」だった三種の神器のうち、掃除機がテレビにいれかわった神武景気の真っただ中。若者たちはロカビリーに熱中した。山下敬二郎は、当時の若者たちの心情をこう語る。

「戦後の混乱が一段落して、日本の若者たちがようやく好きなものをやれる時が来たんですよ。でも、まわりを見わたしてもろくに遊びがなかった。みんな発散しなきゃどうしようもないくらいに、夢中になれるものに飢えていたんですよね。僕らは、そういうものを全部まとめて面倒みたっていう気がしてます」

だが、わずか一年余りで若者主導のロカビリー旋風は消え、六〇年代に入ると主催者側や音楽業界主導によって作られた〝熱狂〟へと変質していった。

音楽評論家の伊藤強氏はこう語る。

「なにも座って聴くだけが音楽じゃないってことを、初めてやったのが第一回『ウエスタン・カーニバル』でしたね。それに、当時はお客の騒ぎ方がセンセーショナルなトピックスでもあったわけです。だから余計に若者たちは煽られたし、大人は大人で眉をひそめた。でも、それがセンセーショナルでなくなって来るにつれ、ロカビリー旋風も衰退していったんです」

日劇「ウエスタン・カーニバル」は、いったん尻すぼみになったものの、一〇年後のGSブームで再燃。昭和五二年八月まで毎年三回、二〇年も続いたが、もう若者主導の旋風は起こらなかった。

▶昭和三三年、一二月一六日から二二日まで開催された第四回日劇公演のプログラム。

◀和製プレスリーと呼ばれた平尾昌晃。日劇に登場するまでは、銀座の「テネシー」で歌っていた。「ミュージック・ライフ」昭和三三年四月号掲載。

シンコーミュージック提供

女たちの肖像

いちずさが魅力「バス通り裏」で十朱幸代デビュー

稲葉真弓

NHKが本放送を始めて六年、次々とテレビドラマが登場したが、そのひとつに、「事件記者」とともに人気番組となった「バス通り裏」がある。このテレビドラマで清純な娘役としてデビューしたのが、当時一五歳だった十朱幸代。俳優の父、十朱久雄が出ていた「隣りも隣り」を見学に来ていたところをスカウトされ、一躍茶の間の人気者になった。四九年、俳優の小坂一也との一五年にわたる交際のすえ、結婚。未入籍のまま一年もたたずに別れるという奇妙な離婚劇で話題を呼んだ。「永すぎた春、短すぎた結婚」と揶揄された破局の真相を、ついに小坂も十朱も明らかにしなかったが、この破局を経て、十朱幸代は舞台にテレビに映画にと大きく花開くことになったのだった。

五〇年、芸術座の正月公演「おせん」の主役に抜擢されて以来、正月公演の座長をつとめ、六一年には夫の浮気と義父のボケを描いた映画「花いちもんめ」の演技で、ブルーリボン賞主演女優賞を受賞するなどめきめきと女優株が上昇。

その間、流した浮き名は数知れず、マスコミをにぎわした恋の相手は、高倉健、名高達郎、井上純一、竹脇無我、西城秀樹と枚挙にいとまがない。交友関係も政治家、名だたる企業の社長など多彩きわまりないが、どんな浮き名が流れてもマイナスイメージにつながらないのがこの人の取り柄で、むしろ瞬間、瞬間のひたむきさ、いちずさがかわいいと、共感を寄せる人が多い。

女優という虚構の女を生きることと、生身の女である自分について、彼女は六三年のインタビューでこう語っている。

「自分の人生はないんですかって、言われるけど……。女優って役を生きてしまうのね。結局、こうやって結婚もしないで一人で生きてるのも女優だからなんです」

恋多き女、結婚しない女、加えて「熟女」という言葉がプラス評価として使われるようになったのは最近のことだが、中でも十朱幸代は、「年下の男」との愛を取りざたされながらもバッシングはほとんどなし。恋が芸に磨きをかけているのか、舞台、映画で女盛りの美しさをあますところなく発揮して、五〇歳を越えた今も、年代を問わず支持される女優として貫禄を見せている。

▲「バス通り裏」に出演していた頃の十朱幸代。

勝者・敗者

「神様、仏様、稲尾様！」六度の登板でシリーズ大逆転

阿部珠樹

この年のプロ野球日本シリーズは、三年連続で読売ジャイアンツと西鉄ライオンズの激突となった。二年続けてライオンズに苦杯をなめさせられていたジャイアンツは、新人の強打者・長嶋茂雄を先頭に、雪辱の意気に燃えて、開幕からライオンズを追いつめる。たちまち三連勝。覇権奪回まであと白星ひとつと迫った。

そして第四戦。朝から雨がグラウンドを濡らす。試合中止。この雨がシリーズの流れを一変させた。一日休養を授かったライオンズのエース・稲尾和久は、それまでの不調がウソのように蘇った。

仕切り直し後の第四戦で完投勝ちした稲尾は、続く第五戦も四回からリリーフに立ち、延長にもつれこんだ試合にみずからのサヨナラホームランで決着をつけた。

一日休養をはさんだ第六戦、今度はあっさりジャイアンツ打線を完封する。翌第七戦。ライオンズの先発はまたしても稲尾。

しかし、この年入団三年目、二一歳の若者の辞書に、疲労の文字はなかった。味方の活発な援護にも助けられ完投勝利。ライオンズは、三連敗四連勝という史上に残る劇的な逆転で、ジャイアンツを退け、三たび王座についた。

MVPには大車輪の活躍を見せた稲尾が選ばれた。

「最終戦は悪い調子ではなかったが、球威そのものはなかったように思う。しかし絶対負けないという気力で投げた。感無量です」

シリーズ七戦のうち六試合に登板し、四試合が完投、勝ち星すべてをあげた「鉄腕」を、ライオンズ・ファンは、「神様、仏様、稲尾様」と称えた。

ライオンズの軍門に降ったジャイアンツの中では、一人、新人の長嶋茂雄だけが気を吐いた。稲尾から二本のホームランを含む三安打。特に、最終戦、ジャイアンツの完封負けを阻止した左中間へのランニングホーマーは、この新人が単に打つだけでなく、走攻守そろった新しいタイプのスターであることを強烈に印象づけることになった。

▲10月21日、三連覇とMVPを手中にした。

朝日新聞社

朝日新聞社

◀**南極から謹賀新年（1月1日）**前年1月29日に上陸し、初めて南極大陸に日章旗を掲げた観測隊のうち、残った11人が南極で初めての元日を迎えた。写真は南極生まれの子犬を抱く越冬隊員たち。

▲**日韓相互釈放で笑顔（1月1日）**前日の交渉の結果、李ライン侵犯で韓国に抑留中の日本人と、日本に抑留の韓国人刑余者との相互釈放が決定。長崎の大村入国者収容所は、朝まで陽気な騒ぎが続いた。

▼**定期旅客船「南海丸」、強風で転覆（1月26日）**徳島県小松島港から和歌山港へ向かう途中、淡路島南東沖で20メートルの強風を受けて沈没、乗員・乗客167人全員が死亡した。写真は3月9日の引揚げ作業。

朝日新聞社

▶**米、人工衛星打ち上げに成功（1月31日）**ジュピターC改良型4段ロケットに搭載して発射、「エクスプローラー」と命名。直径15センチ、機器の重さ8.2キロと小さく、ソ連との差はまだまだ大きかった。

WWP

毎日新聞社

▲**日高応接室オープン（1月15日）**未婚男女の交際の場として人気だった、東京駒込の東大教授・日高孝次夫妻宅が前年6月閉鎖。会員たちはこれを惜しみ1口1万円で新たにホールを建設、この日落成祝賀会を開いた。

昭和33年1月

- 1（水）●日本、国連安全保障理事会の非常任理事国に。●東京通信工業、社名をソニーに変更。
- 2（木）●元日以来都内で九件の練炭や木炭中毒事故。
- 3（金）●原子力発電会社の訪英調査団、コールダーホール改良型原子炉買い付けのため出発する。
- 4（土）●東京南千住署でバラック留置場破り五人脱走。
- 5（日）●大蔵省、高校の育英制度新設の予算化を承認。
- 6（月）●前月の国際収支の黒字四七〇〇万ドルと大蔵省。
- 7（火）●米軍、神奈川県に日本人三二八人解雇と通告。
- 8（水）●全繊同盟、操短による六五〇三人解雇を承認。●沖縄で琉球立法院制定の教育四法を公布。
- 9（木）●東京高検、二俣事件（25年）の上告断念。死刑判決後のやり直し裁判での無罪は初めて。
- 10（金）●傷痍軍人会、決起大会で傷痍恩給増額を要求。
- 11（土）●日米教育交換計画公文に署名。留学援助など。
- 12（日）●那覇市長選で革新系の兼次佐一が当選する。
- 13（月）●厚生省、ソ連抑留者の死亡・帰還名簿を公表。
- 14（火）●サハリンから一四次引揚げ者五四六人が帰国。●横浜市の火薬工場で爆発事故。二人死亡。
- 15（水）●世界平和アッピール七人委員会、南極や月の国連管理、米ソ核軍縮協議などを国連に勧告。
- 16（木）●都山岳連盟、生保会社と登山保険を契約。
- 17（金）●米軍、羽田空港施設の返還を日本に通告。
- 18（土）●サウジアラビア、対日石油利権付与の法公布。
- 19（日）●大村収容所から抑留中の韓国人六六九人を釈放。●早大隊、キリマンジャロのキボに登頂。日本女性初の六〇〇〇メートル級登頂を二隊員が達成。
- 20（月）●インドネシアとの平和条約・賠償協定に調印。●大日本製薬、妊婦のつわり防止薬「イソミン」を発売（後にサリドマイド薬害の原因となる）。
- 21（火）●造船一位は日本の二四二・四万トンと英ロイド。
- 22（水）●東京で戦争未帰還者の全国留守家族大会開く。
- 23（木）●大蔵省、各地の地場産業デフレで苦境と発表。
- 24（金）●新宿の「赤線」七〇業者などが四谷署に廃業届。●マスコミ倫理懇談会が全国協議会を結成。●丹下健三に米建築家協会の第一回汎太平洋賞。
- 25（土）●ジフテリア増加で予防接種法の改正案決定。
- 26（日）●紀伊水道で定期船が沈没。一六七人が死亡。
- 27（月）●三〇年の一世帯平均資産は三三万円と経企庁。
- 28（火）●日銀、東京系九銀行に貸し出し削減を要望。
- 29（水）●海上自衛隊の練習艦隊、真珠湾に初の入港。
- 30（木）●海上保安庁、北朝鮮密輸ルート究明のため全国で一斉家宅捜索。共産党員ら一〇人を逮捕。
- 31（金）●観測船「宗谷」、オングル島北西で立ち往生。

ニュース・ファイル 1958

フォト＋日録で再現する365日

テレビ契約が一〇〇万台を超え、週刊誌の創刊が相次ぐなど、大衆化社会が訪れた。フラフープが爆発的人気となったこの年、家電ブームはピークに達し、ロカビリー、サックドレスとブーム現象が続き、年末の皇太子妃決定はミッチーブームとして迎えられた。

◀**剣豪作家もフラフープ（10月20日）**オーストラリアの子どもたちの遊びが始まりというフラフープが10月にデパートで売り出されるとたちまち大流行、品切れが相次いだ。写真は妙技を見せる剣豪作家の五味康祐。

読売新聞社

◀アラブ連合共和国誕生(2月1日)カイロで合邦宣言に調印するエジプト大統領ナセル(右)と、シリア大統領クワトリ。2月21日、国民投票で正式に成立。初代大統領にはナセルが就任した。

WWP

▼昭電疑獄の芦田均元首相、名誉回復(2月11日)昭和23年に起き、芦田内閣崩壊の原因となった昭和電工をめぐる贈収賄事件の控訴審判決で、他の被告4人とともに無罪になった。

▲若乃花、横綱に昇進(2月3日)1月場所で栃錦を水入り引き分け、取り直しという熱戦のすえに破って優勝。この日、第45代横綱に推挙された。栃若時代のスタートである。写真は東京・阿佐谷の花籠部屋で行われた綱打ち。

朝日新聞社

読売新聞社

▲東京宝塚劇場出火(2月1日)ミュージカル「アイヌ恋歌」の初日上演中に舞台裏から出火。約6330平方メートルを焼き、子役少女ら3人が焼死、16人が重軽傷を負う惨事となった。

◀開高健、芥川賞披露宴(2月11日)開高は寿屋(後のサントリー)宣伝課勤務の27歳。「裸の王様」で前年度下半期の芥川賞を受賞。この日、東京会館でそのパーティが華やかに開かれた。

朝日新聞社

読売新聞社

◀黒い弾丸オール・ブラックス、全明大を一蹴(3月16日)ニュージーランドから来日した世界最強のラグビーチームが、東京の神宮外苑秩父宮ラグビー場で圧倒的な破壊力を見せつけ55対3で楽勝。日本で負けなしの7勝目を飾った。

読売新聞社

朝日新聞社

◀共産党の「人民艦隊」手入れ(3月22日)マグロ船をよそおった中国への密出入国専用船団のひとつとみられ、警視庁は全国37ヵ所を家宅捜索。漁船に乗っていた共産党員ら10人を逮捕した。

▲さようなら山口淑子(3月27日)戦前のトップスター李香蘭で、戦後も人気女優の山口が外交官・大鷹弘との結婚を機に引退。写真は東京会館でのさよならパーティーで涙を流す山口。

読売新聞社

▲加藤一二三、18歳で将棋8段に(2月27日)将棋順位戦で9勝2敗、史上最年少の昇段記録を達成(4月1日正式に昇段)。加藤はA級入りと同時に、4月には早稲田大学文学部に進学した。

▶「テレビ結婚式」(3月3日)KRTテレビ(現・TBS)が放映、スタジオで誓いの言葉、披露宴などを行うユニークな番組。この日、第1号カップルが誕生、洗濯機などの商品を得た。司会は徳川夢声・中村メイコら。

◀関門トンネル開通式(3月9日)山口県下関市と福岡県門司市を結ぶ。全長3461メートル、道路としては世界初の海底トンネル(海底部780メートル)だった。昭和12年に着工したが戦争で中断、27年になって再開されていた。

毎日新聞社

昭和33年2月

1(土)●米、初の人工衛星が軌道に乗ったと発表。
2(日)●フィリピン遺骨収集団、レイテ島で慰霊祭。
●トルーマン前米大統領、テレビで「原爆投下に良心の呵責はない」と発言。
3(月)●若乃花の横綱推挙式、明治神宮拝殿で挙行。
4(火)●日印通商協定調印。一八〇億円の円借款など。
●財閥解体後、再び企業の系列化進むと公取委。
5(水)●アラビア石油設立。ペルシャ湾の油田が目的。
6(木)●李ライン外で操業の日本漁船を韓国艇が銃撃。
7(金)●労働四団体、政府の最低賃金法案に反対表明。
8(土)●米軍、地上部隊の日本引揚げを完了と発表。
●日劇で第一回ウエスタン・カーニバル開催。
9(日)●岸首相、車中で「防諜法」の制定は必要と語る。
10(月)●北海道で戦争中強制労働をさせられた中国人、一三年の潜伏後石狩郡の山中で発見される。
11(火)●北関東以北で観測史上最大のオーロラが発生。
●ルバング島で日本兵救出の第一回ビラまき。
●東京高裁、昭電疑獄の芦田元首相らに無罪。
12(水)●最高裁、国民健保への強制加入は合憲と判断。
13(木)●琉球政府、結核患者の東京での入院を求める。
14(金)●衆院社会労働委員会、角膜移植法案を可決。
15(土)●「赤線」偽装転業で初めてバーの経営者を起訴。
16(日)●沖縄社会党、結成大会。祖国復帰などを決議。
17(月)●東京王子署、「赤胴鈴之助遊び」に使う釘を、列車にひき潰させていた小学生一五人を補導。
18(火)●東京の地価高騰で土地争いが急増と新聞に。
19(水)●日商や経団連、米の対日輸入制限に抗議声明。
20(木)●千葉県警など、三九人の女性をだまし芸者置屋などに送りこんだ人身売買団二七人を検挙。
21(金)●岸首相、経済顧問に鮎川義介ら四人を起用。
22(土)●文部省、小学校体育に「回れ右」など号令復活。
●NHK熊本・鹿児島開局(日本縦断網完成)。
23(日)●東京四谷署、新宿の暴力取締りで七五人検挙。
24(月)●社会人野球協会、選手に契約金を支払った大昭和製紙野球部に、一年間の出場禁止処分。
●KRT(現・TBS)「月光仮面」放映開始。
●文部省、悪天候で「宗谷」が接岸できないため南極観測隊の第二次越冬を断念と発表。
25(火)●黒部第四発電所用の大町第二号トンネル貫通。
26(水)●近江絹糸、自主再建頓挫し四工場休業と発表。
27(木)●科学技術庁、初の『科学技術白書』を発表。
●大阪府警、裸婦画のグリコ景品に中止を勧告。
28(金)●都内最後の「赤線」業者が、売春防止法の全面実施(4月)を前に一斉転廃業を届け出る。

昭和33年3月

1(土)●大阪市が全国初の「街を静かにする運動」。
2(日)●英連邦隊、史上初の南極大陸横断に成功。
3(月)●富士重工、軽乗用車「スバル360」を発表。
●日中文化協定の初使節、松山バレエ団出発。
4(火)●共産党のトラック部隊事件(32年)で二人逮捕。
5(水)●厚生省、小児麻痺用ワクチンの国産化に着手。
6(木)●衆院文教委がプロ野球契約金高騰問題を審議。
7(金)●仏で日本への旧松方コレクション寄贈法成立。
8(土)●日教組、全国で勤評反対集会。六五万人参加。
●白米食普及で脚気増加と厚生省『栄養白書』。
9(日)●下関で関門国道トンネル(三四六一メートル)開通式。
●松川事件対策協議会結成。会長に広津和郎。
●開高健「裸の王様」で芥川賞受賞。
10(月)●ルバング島調査団、元日本兵生存確認と発表。
●運輸相、「神風タクシー」追放を業界に要望。
11(火)●日本など四三ヵ国にユニセフ児童救済金を承認。日本へは母子家庭用などに一二万余ドル。
12(水)●最高裁、公務員の政治活動禁止は合憲と判決。
13(木)●琉球米民政府、社党代表の沖縄渡航を不許可。
●文部省、越境入学抑制を各教委に通達する。
14(金)●松永文相、参院予算委で学校を通じたアジア競技大会への強制的寄付をやめさせると答弁。
15(土)●東京で昭和基地に残る樺太犬一五頭の追悼会。
16(日)●琉球立法院総選挙。社会大衆党が第一党に。
17(月)●大阪市の全中学校長、教組からの脱退決定。
18(火)●米、伊丹飛行場を返還(34年に大阪国際空港)。
19(水)●文部省、道徳教育実施要綱を各教委に通達。
20(木)●北京—東京間の国際電話が一三年ぶり再開。
21(金)●炭労四組合、無期限重点スト(~6月19日)。
22(土)●警視庁、「人民艦隊」を手入れし一〇人逮捕。
23(日)●東京天文台に米製人工衛星観測用カメラ到着。
●前年の造船実績で、三菱造船所の一位をはじめ、国内五社が世界の一〇位以内と新聞に。
24(月)●全日本農民組合連合会結成。農民組合が統一。
25(火)●千葉銀の一〇億円融資詐欺事件で銀座のレストラン社長が逮捕される(レインボー事件)。
26(水)●通産省、初のソ連原油輸入に外貨割当措置。
27(木)●米国には核を持ちこむ権利があると外相答弁。
●ソ連最高会議、フルシチョフを首相に指名。
28(金)●閣議、電力九社の広域協力運営方式を了承。
29(土)●大蔵省、生保配当の三倍弱引き上げを認可。
30(日)●東京・千駄ヶ谷の国立競技場が落成式。
31(月)●京大に原子核工学科、東大に生物化学科新設。
●自転車税廃止。自転車の鑑札もなくなる。

◀勤評闘争激化（4月23日）文部省が全国の教育委員会に提出を求めている教師の勤務評定は、前年来、日教組の激しい反対闘争を生んだ。この日、都教組は一斉に10割休暇闘争に入った。写真は集会をのぞく子どもたち。

毎日新聞社

▼切手発売に行列（4月20日）郵政省が切手趣味週間の記念で10円切手、清長の「雨中湯帰り」を全国一斉に発売。東京丸の内の中央郵便局では約1万人の行列ができ、用意した180万枚を1日で売りつくすほどの人気だった。

毎日新聞社

津場貞雄

▲浦上天主堂廃墟取り壊し（4月14日）長崎市原爆資料保存委員会などの取り壊し反対、保存申し入れは廃墟の一部を爆心地に移すことで決着。取り壊しの後、再建工事に入り、翌年11月、完成した。

◀▼今世紀最後の金環食（4月19日）午後1時すぎ、九州・薩南諸島や伊豆の八丈島・青ヶ島などで、完全な光のリングが観測された（左）。日本で見られるのは今世紀最後とあって、八丈島の樫立小学校は地元の小学生や東京からやって来た多数の見物客で埋まった（下）。

読売新聞社　朝日新聞社

◀南極観測船「宗谷」、帰還（4月28日）前年来越冬していた西堀栄三郎ら11人と、永田武を隊長とする第2次観測隊が東京港に到着。往路で氷海に46日も立ち往生するなど、悪天候に遭遇したため、第2次越冬を断念。基地には15頭の犬を残した。

朝日新聞社

昭和33年4月

1（火）●売春防止法全面施行（罰則規定を新設）。
●アジア文化図書館開館。郭沫若の寄贈書中心。
2（水）●中央電力協議会が発足。電力の広域運営など。
3（木）●NHK「事件記者」を放映開始。
4（金）●水戸地方法務局、上郷高校スト（32年）に関し長髪禁止は人権侵害の恐れと県教育庁に勧告。
5（土）●防衛庁、次期戦闘機をグラマンF11Fと決定。
●長嶋茂雄、四連続三振で公式戦デビュー。
6（日）●二五年密出国の元産別議長・聴濤克巳、帰国。
7（月）●終身刑のA級戦犯一〇人の赦免が正式決定。
8（火）●東大生産技術研究所、宇宙観測用のカッパー150S型ロケット発射実験に成功。
9（水）●関西主婦連の消費者大会、総評の妨害で混乱。
10（木）●第一回大阪国際フェスティバルが開幕。
●学校保健法公布。学校医・保健室の設置など。
11（金）●最高裁、内縁は婚姻に準じる関係と判決。
12（土）●警視庁、前年の補導少年は十八万余人と発表。
13（日）●大阪駅で割りこみ乗客に初の軽犯罪法を適用。
14（月）●東北本線大宮—宇都宮間の電化が完成。
●長崎の浦上天主堂の取り壊しが開始される。
15（火）●第四次日韓会談。第三次決裂以来四年半ぶり。
16（水）●最高裁、職務拒否の司法部労組員を懲戒免職。
17（木）●沖縄読谷村沖で沈没船の解体中に砲弾が爆発。
●労働省、「神風タクシー」追放で、一昼夜勤務一六時間以内などの指導基準を労基局に通達。
18（金）●衆院本会議、全会一致で原水爆実験禁止決議。
19（土）●日本では二〇世紀最後となる金環食を観測。
20（日）●金閣寺で茶室夕佳亭の床が抜け、四人負傷。
21（月）●靖国神社臨時大祭。二万七一六二人を合祀。
●米、日本製体温計の関税を二倍の八五%に。
22（火）●警視庁、袴田里見らを密入国容疑で取り調べ。
23（水）●都が勤評実施。都教組は一〇割休暇闘争突入。
24（木）●下水道法公布。公共下水道の整備など。
25（金）●衆院解散。自社両党合意の「話し合い解散」。
●日本の輸入超過是正はかる日英貿易協定調印。
26（土）●日本貿易振興法公布、施行。ジェトロ設立。
27（日）●日本考古学協会、道路公団などに名神高速道路の着工前に遺跡調査の実施を要望する決議。
28（月）●郵政省、春闘で全逓の二万二四七六人処分。
●新宿に国立ろうあ者更生指導所開所。
29（火）●山口県教組、県教委作成の勤評規則を承認。
30（水）●刑法・刑事訴訟法改正公布。凶器準備集合罪・斡旋収賄罪が新設される。
●東京・上野の日本芸術院会館が落成し、開館式。

証言・あの日この日
大岡昇平（48）

2月7日（金）〈本が読まれるということは、学者にとっても誘惑的なことらしい。近頃言語学者、心理学者の新書判の啓蒙的媚態もまた眼に余るものがある。『地球の歴史』の著者は篤実な学者らしいが、面白くおかしく書こうとして、文士の眼から見れば、噴飯的文字が随所に見られるのは遺憾である〉（大岡昇平『作家の日記』）

伊藤整の『女性に関する十二章』（中央公論社）によって新書ブームが起きたのは4年前。その年はまた伊藤の『文学入門』によってカッパ・ブックスが生まれた年でもあった。以来カッパの本は次々とベストセラーを生み出していく。カッパを中心とする新書判の特色は、心理学や言語学を専門家が一般大衆に、わかりやすく書き下ろした点にある。つまり、この頃から学者の大衆化が始まった。その妙な文学的表現は時に「噴飯」ものだった。（坪内祐三）

読売新聞社

▲岸信介総理、革新勢力に対決姿勢（5月2日）22日の総選挙を前に関西を遊説。親米・反共の外交姿勢を強調、安保改定に向けて体制固めをはかりつつあった。

▼最高裁で座りこみ（5月2日）裁判書浄書拒否闘争を行う全国司法部職員労組は、闘争を違法として下された免・停職処分に抗議、玄関ホールで集会を開いた。

朝日新聞社

▲太陽炉、初の公開実験（5月28日）名古屋工業技術試験所製作のヘリオスタット式太陽炉で、平面鏡と放物面反射鏡を組み合わせ、1平方センチで1800キロの太陽エネルギーが受けられた。

◀多摩動物公園開園（5月5日）東京都日野町に上野動物園の約2倍半、約28万7000平方メートルの広さを持ち、119種538頭の動物を収容。写真中央は象舎。動物をできるだけ放し飼いにした。

朝日新聞社

昭和33年5月

1（木）●厚生省、化粧品の適正広告基準を設け通達。
2（金）●長崎での中国切手展会場で、日本の青年が中国国旗を引き下ろす（長崎中国国旗事件）。
3（土）●香川県志度町長選で選管に不服の保革両候補が交替で町長にと協定（4日、議会承認）。
4（日）●東京・渋谷の新聞スタンドで変造千円札発見。
5（月）●広島の平和記念公園で原爆の子の像の除幕式。
●東京都日野町に多摩動物公園が開園する。
6（火）●東京地裁、都公安条例は違憲と判決。
●中国海軍、浙江省沖で日本漁船一四隻を拿捕。
7（水）●米国際見本市で日本製電気製品に関心集まる。
8（木）●日航、東京—シンガポール線の運航を開始。
9（金）●前年度は戦後初の入超、と日本鉄鋼連盟発表。
10（土）●中国、長崎国旗事件に抗議し対日輸出許可証の発行停止などを通告（日中貿易中断）。
11（日）●建設省、道路工事は夜間にとの方針が新聞に。
12（月）●警視庁、北朝鮮系麻薬密輸グループを捜索。
13（火）●警視庁、春闘での職場放棄を理由に全逓組合員一五人を逮捕（全逓中郵事件）。
14（水）●東京でアジア初の国際五輪委（IOC）総会。
●大阪のアルサロで火災。一〇〇〇坪全焼。
15（木）●外国為替・外国貿易管理法改正公布、施行。
●原燃公社、岡山と鳥取県境の人形峠付近で酸化ウラン鉱を発見したと発表する。
16（金）●テレビの受信契約者数が一〇〇万を突破。
17（土）●総評、主要都市で生活と教育を守る決起集会。
18（日）●日韓相互釈放最後の漁船員二二人が帰国。
●防衛庁、反対派排除し百里原基地に資材搬入。
19（月）●イランのパーレビ国王、国賓として来日。
20（火）●東京に一八〇店出店の「フードセンター」開業。
21（水）●映画館が観客減少で値引きを検討中と新聞に。
22（木）●第二八回衆院選（自民二八七、社会一六六）。
23（金）●防衛庁設置法・自衛隊法改正公布。
24（土）●東京で第三回アジア競技大会が開幕する。
●東京湾の漁民、本州製紙の排水に船団デモ。
25（日）●東工大生試作のカラーテレビが送受信に成功。
26（月）●北海道登別の空中ケーブルが落下。二人死亡。
27（火）●岡山発鳥取行西備バスで、男性乗客がダイナマイトで自殺。巻き添えで車掌も死亡する。
28（水）●最高裁、炭鉱争議の炭車運行妨害に違法判決。
29（木）●東京地裁、ローマ字印鑑の実印登録を否認。
30（金）●山中毅、水泳四〇〇メートル自由形で世界新。
31（土）●前年の日本の自殺率は一〇万人当たり二四・二人で世界最高、と『国連人口統計』。

◀ペレの大活躍でブラジル優勝(6月29日)ストックホルムの第6回ワールドカップ決勝で、地元スウェーデンに5対2で勝利。神技を連発したペレ(左)は17歳、一躍世界のスーパースターとなった。

ALLSPORT／アフロ・フォトエージェンシー

▲三島由紀夫、結婚(6月1日)新婦は日本画家・杉山寧(写真右から2人目)の長女・瑤子さん(21)で、日本女子大学4年在学中。挨拶するのは媒酌人の川端康成。三島は33歳。『金閣寺』などで人気作家だった。

▼富士山を背に飛ぶ初の国産ミサイル(6月2日)防衛庁は富士山麓北富士射撃場で地対空、空対空ミサイルの射撃実験を行った。写真はTERM-1D地対空ミサイルで全長3.3メートル、重量253キロ。

朝日新聞社

▼フランスの深海潜水艇「バチスカーフ」、太平洋での潜水記録(6月20日)日仏合同日本海溝学術調査のため、6月14日の宮城県金華山沖に続きこの日、女川沖を潜水、新記録となる3000メートルの海底に達した。

▲羽田空港返還式(6月30日)米軍基地を一部残していた東京国際空港は、この日の返還で、旧ターミナルなどをのぞく、すべての空港業務を日本が担うことになった。

共同通信社

▼東洋郵船社長・横井英樹、撃たれ重傷(6月11日)社長室で男に短銃を発射された。7月15日、暴力団安藤組組長・安藤昇(写真中)らが逮捕されたが、横井が3000万円の借金返済に応じないためだった。

毎日新聞社

昭和33年6月

- 1(日) ●初の専門誌「週刊テレビガイド」創刊。
- ●全学連委員長・香山健一、共産党の指導を拒否。
- 2(月) ●防衛庁、国産地対空・空対空ミサイル初実験。
- ●小田原保健所など、前日起きた酒匂川のアユ大量死は、富士フイルムの工場排液と断定。
- 3(火) ●横浜―ナホトカ間航路開設の日ソ協定書調印。
- 4(水) ●ソ連監視船、貝殻島で日本の昆布船を拿捕。
- 5(木) ●和歌山県教組など、反勤評統一行動(～7日)。
- 6(金) ●東京二三区内の電話が五〇万台を突破する。
- 7(土) ●農林省、初の『農業経済四季報』を発表。
- 8(日) ●憲法問題研究会(代表・大内兵衛)第一回会合。
- 9(月) ●福岡高裁、菅生爆破事件(27年)に無罪判決。
- ●北海道の砂川炭坑でガス爆発。一〇人が死亡。
- ●日本の出生率は世界最低水準と厚生省発表。
- 10(火) ●千葉県浦安町の漁民七〇〇人、汚水再放流の本州製紙江戸川工場に乱入。百余人が負傷。
- 11(水) ●東洋郵船社長・横井英樹、短銃で撃たれ重傷。
- 12(木) ●第二次岸内閣成立。藤山外相以外顔ぶれ一新。
- 13(金) ●核実験で白血病が二五％増と国連科学委報告。
- 14(土) ●日仏合同の日本海溝学術調査が開始される。
- 15(日) ●足立区で一〇代の姉妹が酒飲みの父親を絞殺。
- 16(月) ●日産、ダットサンの対米輸出を開始する。
- 17(火) ●岐阜県の御母衣ダム放水路トンネル工事で落盤。三一人生き埋めになる(19日全員救出)。
- 18(水) ●東京でブラジル移住五〇年記念祝賀大会。
- ●日銀、戦後初めて公定歩合を下げ二銭一厘に。
- 19(木) ●大蔵省、全国の税関で無税外国車の摘発開始。
- 20(金) ●原水協の広島―東京平和大行進、広島を出発。
- ●原子力研究所の東海研究所一号炉が五〇〇〇〇時を記録。沸騰水型原子炉では世界最高。
- 21(土) ●和歌山県教委、休暇闘争中止を県教組に命令。
- 22(日) ●相模鉄道大和駅で火災発生。三五〇坪を焼失。
- 23(月) ●東京高裁、人民電車事件(24年6月)に有罪。
- 24(火) ●阿蘇山が大噴火。一二人死亡、二八人負傷。
- 25(水) ●総本山の主導権をめぐり二二年以来分裂していた浄土宗知恩院派と増上寺派が合同を発表。
- 26(木) ●警視庁、「神風トラック」追放で、積載超過などの違反車は事業主も処罰の方針、と新聞に。
- 27(金) ●閣議、一学級を五五人以下にする施行令決定。「すし詰め学級」の解消を五ヵ年計画でめざす。
- 28(土) ●群馬県嬬恋村で東京電力が人工雨実験を実施。
- 29(日) ●山梨県で水争いから農民七五〇人が乱闘。
- 30(月) ●仙台高裁、平事件(24年)に騒乱罪認め有罪。
- ●羽田空港、アメリカから全面返還される。

20世紀博物館

金庫と鍵の博物館

「一国一錠のあるじ」と蘊蓄に仰天

東京・墨田区

桑原茂夫

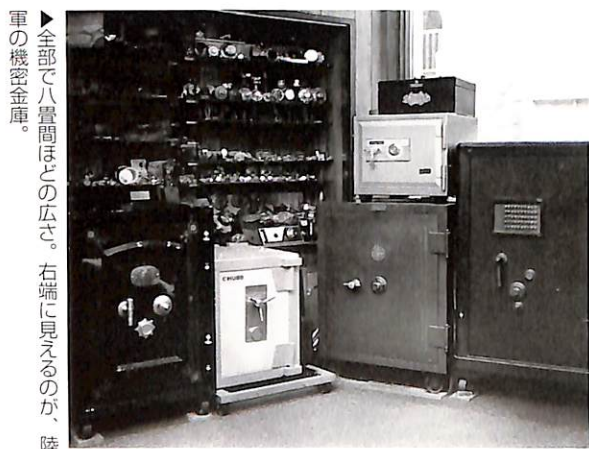
この博物館はきわめて個人的な装いを持っていて、普通の博物館のイメージを期待すべきではない。すでにそこから秘密めいているのである。

下町の通りに面して、赤い鍵の形をした看板が頭上に出ているから、ここだなとわかるのだが、さて入り口はというと、普通の家のドアがあってピンポーン、なのである。そのうえ靴を脱いで中に入るようになっている。

「博物館」というわりにはスペースが小さいが、館長の杉山章象さんの話を聞くにつれ、なるほどと思う。つまり杉山さん自身がほとんど博物館であり、その蘊蓄に耳を傾けることも、館内の「順路」に入っているのである。

そして、相手が子どもならば、郵便ポストを開ける鍵の仕組みを、目の前で実演して見せながら、その技術の深さを教えてあげ、筆者のようないささかトウの立ったものには、金庫や錠前の歴史を写真や図を引っぱり出して見せてくれる

というわけで、まさに相手のニーズに応じる優れた双方向性を持つ、生きた博物館なのであった。

もちろん実際の博物館的金庫や錠前を見ることもできる。その代表的なものは、昭和一二年頃に作られた日本陸軍の機密金庫であり、古代エジプトなどの古い錠前の数々である。陸軍の機密金庫には、最高の国家機密である暗号解読表が隠されていたという。これを盗み読まれることは、国家の存亡にかかわることだから、金庫のディテールのひとつひとつは、軍に直結した技術者が作り、それを使って金庫の専門家が仕上げたそうだ。金庫屋さんが製造の秘密を一手に握っていたら、命がいくつあってもたりないということになってしまうだろう。

この種の大型金庫としてはほかに、一見しただけでは、普通のタンスのようにしか見えない金庫もある。フランスの伝統ある金庫メーカー、フィシェのもので、杉山さんがイタリアの宝石店で同じ型の金庫を見た時、店の人に「フィシェの金庫ですね」と言って驚かれたというエピソードを持っている。ひょっとして怪しまれたのではないだろうか。

そういえば杉山さんは「金庫破りの会」という物騒な名称の会を主宰している。会員二五人ほど。真面目に金庫や鍵の研究をしているそうだが、たとえば、手錠のはずし方なども研究しており、これは杉山さんに言わせると「サバイバルのための脱走術の研究なのだ」そうである。

▲鎌倉時代のものと思われる錠前と鍵。「海老錠」と称される。

◀古代エジプトの錠前と鍵。

▶全部で八畳間ほどの広さ。右端に見えるのが、陸軍の機密金庫。

◀鍵や錠の"生きた博物館"、杉山章象さん。

平野美津子

鍵は社会の自由度を表す

ここで話は鍵の方に移るが、そもそも鍵は、何のためにあるか、という点で杉山さんははっきりした考えを持っている。鍵は自分の外に対してノーの意思を表明するためのものだと言うのだ。手錠の場合はまさにその逆である。「一国一錠のあるじ」という洒落も教えてくれたが、たしかに自分の身を守るために鍵はある。それも「権力から身を守るためだ」と杉山さんは言う。事情は、電子社会になっても変わらない。他人の情報に鍵なしでも簡単にアクセスできるような状態は、自分の身を危うくする。「鍵のあり方は、その社会の自由度を表しているのです」と杉山さんは言う。鍵や錠前もなかなか深い世界なのである。

●金庫と鍵の博物館
東京都墨田区千歳三―四―一
☎〇三―三六三三―九一五一
地下鉄都営新宿線森下駅下車、徒歩四分
開館時間＝一〇時～一七時
休館日＝第一、第三土曜日
ただし、電話を入れてから訪れること。

ベストセラー

『人間の条件』『点と線』など話題を呼んだ人間ドラマ

この年のトップは五味川純平の『人間の条件』(全六巻)だったが、刊行開始は昭和三一年だから、足かけ三年にわたる力作長編である。無名の新人が書き下ろした長編の出版は珍しいが、太平洋戦争前後の中国大陸を舞台にした、圧倒的にリアルな人間ドラマが版元を動かし、えんえん三〇〇〇枚にもおよぶ長編を完結させたのである。

旧満州(中国東北部)の国策会社につとめていた主人公の梶は、戦争に疑問を持ちながらも召集され、やがてソ満国境で敗戦を迎えることになる。そこからの壮絶な脱出行を含めて、さまざまな場面で梶は悩み傷ついていくが、その悩みや傷は、多くの読者に共通するものであったのだろう。この年までで合計二四〇万部というベストセラーになった。

二位の座を占めた井上靖の『氷壁』も、リアルな人間ドラマ。一人の女を愛する男二人がロッククライミングに挑み、一人が転落死してしまう。この転落がナイロンザイルの切断によるものとわかって、その原因が追及されていく。

ところで人間ドラマというと、この年のベストテンには入っていないが、松本清張の『点と線』が光文社のカッパ・ノベルスから刊行されたのも注目に値する。人間ドラマを軸に据えた社会派推理小説が、この作品をきっかけとして、巨大マーケットを築いていったからである。

雑誌の方では、女性週刊誌「女性自身」(光文社)が創刊された。創刊号で、当時最大の"スター"だった正田美智子さんを扱わず、トップは松川事件の被告の妻という、いわば「硬派」の女性誌というスタンスを示し注目された。

●昭和33年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『人間の条件』(五味川純平/三一書房)
2位	『氷壁』(井上靖/新潮社)
3位	『南極越冬記』(西堀栄三郎/岩波書店)
4位	『少年少女世界文学全集』(全50巻/安倍能成ほか監修/講談社)
5位	『陽のあたる坂道』(石坂洋次郎/講談社)
6位	『はだか人生』(佐藤弘人/新潮社)
7位	『経営学入門』(坂本藤良/光文社)
8位	『自由との契約』(五味川純平/三一書房)
9位	『氾濫』(伊藤整/新潮社)
10位	『つづり方兄弟』(野上丹治・洋子・房雄/理論社)

全国出版協会出版科学研究所

▲五味川純平『人間の条件』(三一書房、250円)

▲井上靖『氷壁』(新潮社、310円)

▲松本清張『点と線』(光文社、260円)

スターと名場面

TVゲーム的面白さが話題 黒澤明「隠し砦の三悪人」

この年、話題を呼んだ映画に「隠し砦の三悪人」(黒澤明監督、東宝)がある。戦国時代、隣国に敗れた国の若大将(三船敏郎)が世継ぎの姫(上原美佐)とともに、隠してある軍資金を取り出しながら同盟を結んだ国へ脱出しようと、次々に難関を突破していく、今風に言えばテレビゲームの面白さを加味した娯楽巨篇。狂言回し役の二人(千秋実、藤原釜足)の名演技も評判になった。

また、巨大化したマスメディアの力を戯画的に描き出した、開高健原作の「巨人と玩具」(増村保造監督、大映)は、川口浩と野添ひとみのコンビが若々しく新鮮で、それが逆に、目に見えない力に圧倒され翻弄される人間の哀しさを、予言的に浮かび上がらせた。

一方、森繁久弥らの芸達者がその実力を遺憾なく発揮した「駅前旅館」(豊田四郎監督、東宝=井伏鱒二原作)が好評で、"駅前シリーズ"として十年余にわたって二四作を製作、東宝のドル箱喜劇の第一作となった。

さて歌の方ではフランク永井の「有楽町で逢いましょう」が前年一一月に発売され、この年大流行。その「低音の魅力」はまさに一世を風靡した。

東宝/黒澤プロ提供

▲キリッとした面立ちの姫役を好演した上原美佐と、個性的なバイプレーヤー千秋実、藤原釜足。

大映提供

◀虫歯のある娘(野添ひとみ)を売り出そうとする宣伝担当者(川口浩)。

東宝提供

▲駅前シリーズの常連出演者。左から伴淳三郎、フランキー堺、森繁久弥。

▼昭和31年から33年にかけて、「東京の人」「東京のバスガール」など、東京を歌った都会調歌謡曲が流行。

ビクターエンタテインメント提供

モノ語り'58

「クッキングホイル」「ユニ鉛筆」今も売れ筋のロングセラー商品

◀**国産初のドレッシングで食卓に変化** 野菜をサラダにして食べる方法が一般的になってきて、フレンチドレッシングの需要が生まれた。そこへ登場したのが、キユーピーのフレンチドレッシング(赤)で一瓶200グラム入り100円だった。同じ年にキユーピーはポリチューブ入りのマヨネーズも発売している。

▲**アルミホイルが新しい料理法を生み出した** アルミ製造の東洋アルミニウムが家庭用品として開発したのがアルミホイルで、その名も「クッキングホイル」。発売当時は、25センチ×5メートルで1箱50円。料理学校などで使ってもらい、普及につとめたというが、そのかいあって、たちまち"日用品"として用いられるようになった。写真は発売数年後のもの。

▲**天皇も好んだアイデア駅弁** 信越本線横川駅で駅弁の販売店を営む女性が、折り箱のふたにこびりつくごはん粒が気になったところから、温かいごはんに具をのせた釜めしを思いつき、素焼きの小さな釜を工夫し「峠の釜めし」として120円で売り出した。これがヒットして、この年の10月には天皇もこの駅弁を列車に積みこんだところから、さらに評判となり、駅弁の定番となった。しかし横川駅も今や消え去る運命にあり、釜めしも大きな打撃をこうむることになる。

◀**専門家向けの商品がヒット商品に** 鉛筆が今のようになめらかに書けて、しかも芯が折れにくくなったのは、そう古いことではない。三菱鉛筆の、ユニの開発以降のことと言っていいだろう。ユニ鉛筆はたしかに鉛筆の質を飛躍的に高めたのである。17種類の粘土テストや、数十種類にもおよぶ芯の試作、26種もの軸板用材テストなどを経て開発されたこの鉛筆は、1ダース600円と、三菱鉛筆だけでみても、それまでの最高価格の2倍を上回る高値となったが、その高品質は、予想をはるかに超える販売成績をもたらしたのである。

▼**小さいのにしっかり走るバイクの登場** 50cc 4サイクルという画期的なエンジンを搭載したミニバイク「ホンダスーパーカブ」の第1号が本田技研工業から発売された。エンジンは小型で強力、車体は軽くて操作性に優れていることから、女性にも人気を呼んで、超ロングセラー商品となった。5万5000円という価格も手頃で、発売後1960年代の10年間だけで、700万台という驚異的な売れ行きを示したのである。

▶**本の大きさに合わせて組み立てられる本棚** 誰でも簡単に組み立てられるスチール製の組み立て式本棚。実際使用するにあたって、4枚の棚板の位置を5センチ間隔で自在に決めることができるというところに、最大の利便性があった。自由に動かせるブックエンドつき。内田洋行が5800円で売り出したところ、ほぼ10年間で100万台を突破するヒット商品となった。

▶**栄養補給ジュースとして人気** ビタミンB_1強化米の製造販売で、米屋に流通ルートを持っていた武田食品工業が、同じルートに乗せて発売した「プラッシー」(210ミリリットル20円)は、ビタミンCをたっぷり含むという意味の「プラス・シー」から名づけられたジュース。栄養補給飲料のイメージも濃厚なところから、口コミでヒット商品となった。

人物クローズアップ

安藤百福（四八）

今も年一億食以上の売り上げ「チキンラーメン」を発売

◀安藤百福の創意工夫で作られた「チキンラーメン」は、翌年の昭和34年には、600万食を超えるヒットとなった。

　昭和三一年、安藤百福は大阪市の北にある池田市の自宅で、日夜、ラーメンの研究に没頭していた。ついこの間まで信用組合の理事長として、ビュイックに乗っていた男が、台所で麺をこねているのである。

　メリヤス問屋を手始めに、多くの事業を手がけ成功に導いたが、信用組合の理事長だけは勝手が違った。信用組合の倒産とともに全財産を失い、丸裸になってしまったのだ。

　この時、彼の心の中にはあるイメージがはっきりと描かれていた。それは終戦直後の梅田の焼け跡で見た、屋台のラーメン屋に並ぶ人々の姿である。どんな時でも人間は飢えてはいけない。「食足りて世は平らか」という言葉。これは安藤百福の信念となっていた。だからこそ、逆境の中で、即席麺という未知なるものへの挑戦を始めたのである。

　しかし、即席麺の製造は思ったほど簡単ではない。最も苦心を重ねたのが麺をいかに乾燥させるかであった。ある日、奥さんが天ぷらを揚げる光景を見ながら、ふと思いついた。油の中に落ちた小麦粉は水分をはじいて乾き、浮き上がってくる。麺もこの方法で乾燥させることができるのではないか。何度も実験を繰り返し、麺が余分に膨らまないように鉄枠に入れて揚げるなど、さまざまな工夫がなされた。

　味はチキン味にしよう。でも、この味を麺にどのようにしみこませるか。課題は次々に押し寄せるが、ねばり強く解決していく。

「食文化を変えた男」

　「チキンラーメン」は三三年八月二五日に発売された。時に安藤百福、四八歳。一食三五円（うどん玉一食六円の時代）。

　当初は「うまいが、少々値段が高いな」と問屋は尻ごみする。ところが消費者の方がこの「チキンラーメン」のうまさに魅せられた。一度味見をした消費者は、濃厚な味と麺の歯ざわりに満足して、また「食べたい」と思う。こうした消費者の要求が爆発的な人気商品へと押し上げたのである。

　「チキンラーメン」の麺をよく見ると、平たいことに気がつくだろう。この扁平な形はお湯をかけて二〜三分でおいしく食べられるように設計されている。一本の麺の長さは約五〇センチ、一袋に約一二〇本入っている。麺を揚げる油は植物性のパーム油を使用しているので、酸化しにくく、コレステロールも少ない。まさに小さな袋の中に創意工夫がぎっしりと詰まっているのだ。現在もこの「チキンラーメン」は年間一億食以上、一〇〇億円の売り上げを誇り、日清食品の主力商品である。

　ところで安藤百福はこれだけではもちろん満足しなかった。昭和四六年には第二のヒット商品「カップヌードル」を商品化して発売、一世を風靡した。

　世の中にはアイデアマンは何人もいるだろう。しかしアイデアを消費者の手に届くような製品へと練り上げ、採算にのせ、成功をおさめるとなるとまた別の話。

　明治四三年三月五日生まれ。現在八七歳の安藤百福は「食文化を変えた男」と言われている。誰もこの形容詞に異議を唱える人はいない。

　現在も、年間総売り上げ三三〇〇億円の日清食品の代表取締役会長をつとめ、元気に大阪本社に通っている。明治・大正・昭和・平成と生き抜いた〝工夫の人〟は、暇があると好きなゴルフを楽しんでいる。

▲昭和36年頃の「チキンラーメン」生産風景。おいしさ、安さ、簡便さなどで即席麺は消費者の心をとらえた。
日清食品提供

▲昭和四六年、「カップヌードル」発売当時の安藤百福。その後、後発メーカーが類似品を作り、特許上の衝突も頻繁に起きた。日清食品の歴史は類似品との闘いの歴史でもあった。
日清食品提供

◀アーカンソー州、フォート・チャフィーで入隊検査を受けるプレスリー。三月二四日早朝、彼は両親とマネージャーにつきそわれて、テネシー州メンフィスの徴兵委員会に出頭した。 ドン・クラーベンス(LIFE) PPS

決定的瞬間

プレスリー、陸軍に入隊！美女とデートを重ねたドイツでの〝GI〟生活

人気絶頂のロックンローラー、エルビス・プレスリー（二三）が、一九五八年三月二八日、九四〇〇人の若者たちと一緒に、米国テキサス州の陸軍第二機甲師団に入隊。認識票「第53310761号」の二等兵として基礎訓練を受けることになった。

髪をダックテイルからGIカットに刈りこんだエルビスの軍服姿が報道されると、全米の若者たちの間からため息まじりのブーイングが起きた。

エルビス入隊へのブーイングは、前年の一二月、テネシー州メンフィス徴兵委員会からエルビスに、翌年一月二〇日までに入隊せよとの徴兵令状が届けられた時から始まっていた。全米のファンからアイゼンハワー大統領や陸軍長官宛に入隊延期を求める手紙が殺到。また、映画「闇に響く声」が撮影中だったため、製作者側も入隊猶予を申し出ていた。その結果、エルビスの入隊は映画の完成まで二ヵ月間猶予され、この日に延期されたのだ。

とはいえエルビス自身は、前年一月に徴兵検査にパスした時点で、この日が来ることを覚悟。ことあるごとに「ぼくは入隊することを非常に誇りに思っています」とコメントしていた。

▲兵役につくことによって、プレスリーの月収は10万ドルから83ドル20セントに。 PPS

陸軍基地での基礎訓練を終了したエルビスは、九月二二日、一〇〇〇人以上の仲間と兵員輸送船に乗りこみ、配属先のドイツ、フリードベルクに向かった。そこで一年半、薄給の一兵卒としてすごすことになるのだが、実はその前に、軍から軍属歌手という特別任務につくよう要請があった。

だが、エルビスの敏腕マネージャー、パーカー大佐はこれを拒否。かわりに、一兵卒としてほかの新兵と同じように軍務についているエルビスの姿をマスコミに撮らせて、大いに宣伝に利用した。一方、エルビスはブロンド美女とのデートで忙しかった。相手は空軍大佐の娘。後に結婚することになるプリシラである。

ドイツでの兵役を終えたエルビスは一九六〇年三月三日に帰国、除隊した。その時の記者会見でプリシラと交際していたことを認め、また、「フランク・シナトラ・ショー」への出演が帰国後の初仕事になると発表した。

ほんの六分間だけの出演だったにもかかわらず、エルビスに支払われたギャラは、当時としては破格の一二万五〇〇〇ドル。この後すぐにレコーディングも再開して、「アー・ユー・ロンサム・トゥナイト」など、たてつづけにミリオンセラーを記録した。

また、「GIブルース」で映画へもカムバック。エルビスのドイツでのGI生活ぶりを彷彿とさせるこの作品は、ハリウッド史上に残る記録的な高収益をあげ、サウンドトラック・アルバムも大ヒット。エルビスは、またたく間にスーパースターの座に復帰した。

美の出会い

やかん、醤油卓上ビンから名車「てんとう虫」まで国産デザイン続々登場！

柳工業デザイン研究会提供

▲「早く沸くやかん」（昭和28年・東京ガス）　東京ガスが、ガスの節約のため、デザイナーの柳宗理に「早く沸き、冷めるのが遅いやかんを考えてほしい」と依頼して作られた。やかんの中央にある空洞の円錐体が、火口から上方へと熱を伝え、沸騰を早める構造になっている。

▶「ピース」（昭和27年・日本専売公社）　タバコの「ピース」は昭和21年1月に発売されたが、売り上げが振るわなかった。日本専売公社では、当時「ラッキーストライク」のデザインを改装して売り上げを爆発的に伸ばしたレイモンド・ローウイに依頼してパッケージを一新した結果、売り上げが急増した。

たばこと塩の博物館提供

戦後まもない混乱状態の中から、日本の産業界は復興をめざして動きだしたが、製品のデザインまで考える余裕はなかった。どんなデザインでも使えさえすれば売れたのである。

工業デザインの必要性が求められ始めたのは一九五〇年代（昭和二五年以降）に入ってから。当時の日本では、そのデザインのよさなどからアメリカ製品が憧れのまとであった。

昭和二六年四月、アメリカのインダストリアル・デザイン界の大物レイモンド・ローウイが来日し、日本工業倶楽部で講演した。その内容は「意匠は販売を左右する」といった、今ではごく当たり前のことだったが、財界人たちに大きな感銘を与えた。

その時の聴衆の一人で、当時、日商会頭の要職にあった藤山愛一郎は、さっそくローウイの自伝的な著書『Never Leave Well Enough Alone』の翻訳を手がけ、『口紅から機関車まで』と題して出版した。

またローウイが、その頃、売れ行きがかんばしくなかったタバコ「ピース」のパッケージ・デザインの改装を依頼され、そのデザイン料が一五〇万円という高額だったということも注目された。当時の総理大臣の月給が一一万円という時代である。

デザインの重要性が、やっと日本の産業界でも理解され、浸透し始めたのだが、一方では、デザインの模倣・盗用などの問題が生じたことも事実である。しかし、こうした中から欧米のイミテーションから離れ、独自の工業デザインを開拓しようとするデザイナーやグループが次々に台頭してきた。

国内のパイオニアたち

昭和二七年に柳工業デザイン研究会を設立した柳宗理は、戦後の混乱期にすでに合理性と優雅さを兼ね備えた名品を数々生み出し、欧米にも知られるデザイナーとして活躍していた。なかでも東京ガスと共同でデザインした「早く沸くやかん」は、戦後生産されたアルミ製家庭用品の中で最も初期のもの。デザインのよさに加えて、沸騰を早める工夫がされており、湯沸かしの速度と経済性の両面を売りものとして発売された。また西洋式家具に日本建築に見られるような曲線を巧みに取り入れたバタフライスツールは、彼の代表作になっている。

商業主義とは一線を画す柳のデザイン理論は、今日でも多くの支持を得ている。

また昭和三二年、GKインダストリアルデザイン研究所を設立した栄久庵憲司は、道具・もの作りを日本人の精神文化の原点としてとらえ、インダストリアル・デザインの必要性を産・官・民の三者に積極的にアピールしていった。キッコーマンの醤油卓上ビンをはじめ、山本山ののり缶、ますずしのパッケージなど、特に日常生活に密着した作品を世に送り出している。

昭和三三年、アメリカ文化追従ブームたけなわの時、これに反発するかのように、日本でも優れたデザインの作品が次々と誕生した。自動車ではダットサン211型、スバル360、オートバイではホンダスーパーカブC100、カメラのオリンパス・エース、またTR-610トランジスタラジオ、パロマガス湯沸器などが登場、ソニーのトランジスタラジオは逆に海外で模倣されるまでになったのである。

富士重工業提供

▼「ホンダスーパーカブＣ100」（昭和33年・本田技研）　実質的な開発責任者・チーフデザイナーは本田宗一郎。ハンドルから足元まで風よけをつけた斬新なデザインが人気を呼び、埼玉工場、浜松工場だけでは生産が追いつかず、近代的な鈴鹿工場が作られた。

▲「スバル360」（昭和33年・富士重工）〝てんとう虫〞の愛称で親しまれ、戦後デザインの傑作と評価が高い。デザインを担当した佐々木達三は「私は図面も絵もいっさい描きません」という条件で引き受け、内部にいたるまで木型と粘土だけでデザインを完成させた。

▶「醤油卓上ビン」（昭和36年・キッコーマン）　生活の中で使用する道具を大切に考え、海外でも高い評価を得ているGKインダストリアルデザイン研究所・栄久庵憲司の作品。初めて世に送り出されてから、現在まで、形を変えることなく、消費者に愛されている。

GK グラフィックス提供

本田技研工業提供

「現場」を歩く 吉原

売防法から三九年目のブレーゾーン

山本徹美

▲昭和33年以後、置屋に代わってソープランドがふえ始め、現在では約160軒が営業している。 斎藤和欣

昭和三三年四月一日、売春防止法が完全施行された。この日から刑事処分の罰則が発効。すなわち、売春の勧誘、周旋、場所や資金の提供を行った場合、最高で懲役一〇年、罰金三〇万円に処せられることになったのである。

吉原では一三〇あった置屋（おきや）が一五に減った。その盛衰を『吉原現勢譜今昔図』にまとめた荒井一鬼（かずき）氏は回顧する。

「町内会では、困ったという話は聞かなかった。新吉原カフェー喫茶協同組合が中心になって転業資金を調達してたから」

業者はさておき、〝職〟を失った女性は全国で五〇万人とも推測された。

大きいエイズの影響

赤線娼婦のほとんどは貧困ゆえにその道に入ったわけで、やめたところで彼女らの生活保障が充分でなければ、またもとの生活に戻ってしまう。東京都民生局の発行した『東京都の婦人保護』に某娼婦の証言がある。

「待遇は、吉原が一番悪かった。江戸時代から先祖代々の店なんか徹底して悪かった。私なんかの店は、まったく食べさせて貰えなかったよ。三五円のラーメンを食べるのが忘れられない思い出だわ。淋病（りんびょう）くらいで休んだら大変だったわ。だからうつしたり、うつされたりしたでしょうね。ああいう社会の考え方は一般とは違う。やっぱり奴隷ね。本当に怖い」

赤線廃止後、彼女はトルコ風呂（個室付特殊浴場）に鞍替えしたという。

「トルコで働くのは辛いこともあるけど、気持ちの上で楽しい」

彼女には売春行為への反省はなく、待遇改善を喜んでいるのがわかる。

この法律は、売春自体を処罰の対象にしていない。売春「禁止」法ではないのだ。そこに抜け道がある。

売防法施行後三ヵ月目にして都内では二七軒のトルコ風呂を数え、その後も増加の一途をたどる。こうした動きに対して、法案成立に尽力したメンバーの一人・市川房枝議員が昭和四一年三月、国会で、「トルコ風呂は一種の赤線復活であり、公衆浴場法で取り締まるべき対象ではない。規制すべきだ」としたが、具体化にはいたらず、せいぜい変わったのは、トルコ大使館の抗議によって、名称がソープランドに改められたくらい。店舗数が一八〇軒とピークを迎えた五九年頃は、OLや女子大生が毛皮やブランド商品、遊ぶ金ほしさにアルバイト感覚でソープ嬢となる例も少なくなかった。

平成八年秋、吉原を散策してみた。高級ホテルか、クラブのような構えの店がつらなる。人影はまばらで、路上にいるのは客引きだった。景気を訊（き）いてみる。

「バブル崩壊とエイズでさっぱりだね」

それまで接待で利用していた企業関係の需要が激減したのだという。性病ならまだしも、生命にかかわるエイズに罹（かか）ったとなると補償問題になりかねない。

「テレクラとか、女の方が出張してくるサービスもある。ここは不便だからねぇ。雨が降ったり、寒いと客足は遠のくよ」

ため息をつくが、やや減少気味とはいえ、今も吉原ではソープランドが約一六〇軒も営業している。その灯はしばらくの間、消えそうにない。

朝日新聞社

▲吉原は江戸期から昭和33年まで公許の遊廓地だった。写真は売防法施行前の吉原。

「何でもむちゃくちゃ安いんや!」神戸・三宮にダイエー・チェーン1号店

▲昭和33年12月、神戸・三宮にチェーン化の1号店が開店。薬品・化粧品・雑貨・菓子などが並んだ（写真は37年の三宮店の店頭）。 ダイエー提供

昭和三三年暮れ、年の瀬のあわただしい中、神戸・三宮センター街の近くに小さなディスカウントストアが開店した。前年に大阪で創業したダイエーがチェーン化に踏み出した第一号店である。これこそ、日本の流通革命、価格破壊の始まりだった。

市価より三～四割安い セルフサービス店の登場

とにかく、何でもむちゃくちゃ安いんや――。噂を聞いた神戸の主婦たちが、次から次へと押しかけた。昭和三三年一二月二日のオープン以来、「主婦の店・ダイエー」三宮店は連日、戦場のようなにぎわいだった。

「午前一〇時から午後八時まで、全員キリキリ舞いの忙しさ。昼飯も交代で一人ずつ、二、三軒隣のラーメン屋へ走り、空席を待てず、五分間の立ち食いだった」（社史『ダイエーグループ35年の記録』）

「何でもむちゃくちゃ安いんや!」神戸・三宮にダイエー・チェーン1号店

五〇坪（約一六五平方メートル）に満たない売り場で一日の客数が二〇〇〇人以上というのだから、混雑のさまは想像を絶する。今日、巨大コングロマーチャントを形成し、従業員一〇万人をたばねるCEO（最高経営責任者）の中内功（三六）も、レジの横に立ちっぱなしで商品の値段を大声で読みあげていた。

ダイエーはその前年九月、大阪・千林駅前で創業した。床面積三〇坪（約九九平方メートル）、従業員一三人。薬、化粧品、雑貨を扱うディスカウントのドラッグストアとして出発し、菓子類の安売りが大当たりして食料品にも手を広げた。成功の決め手は、売れ筋商品を店頭に積み上げ、市価より三～四割安く売った点にある。

チェーン化の第一歩になる三宮店は、その業態をそっくり継承していた。繁盛は予想を上回った。五ヵ月たらずで一〇〇メートル離れた場所に店舗を移し、売り場を拡大。品ぞろえを豊富にするとともに、スーパーの特徴であるセルフサービス、セントラルチェックアウト方式を採用した。安さと商品量に加えて、こうした斬新さがさらに消費者の心をとらえた。

三宮店の売り場は翌三四年、二階まで拡張され、さらに三六年には斜め向かいに新館を設けて、当時国内最大のスーパーマーケットを完成させた。

「ダイエー三宮店では、盆暮などにはあまり客が多くて危険状態におちいることが度々なので、三十分ごとに入口にシャッターを降ろし、客をコントロールしている」（『財界』昭和三八年七月一五号）

出店を重ねて、現在、直営だけでも三七〇店を超える店舗網を築きあげたダイエーの快進撃は、ここから始まったのだ。

ダイエー提供

▲37年5月社長の中内は39歳で渡米し、流通の先進国アメリカの豊かな社会と、ケネディのメッセージに触れ、「残りの人生をスーパーに賭ける」決意をする。帰国後、単なる安売りから本格的なチェーン展開を始めた。40年に松下電器を独禁法違反で提訴するが、中内はテレビを持ちこんで記者会見（写真）、「消費者のため」として大手メーカーと闘う姿勢を崩さなかった。

ダイエーの流通革命 売価は店が決める

ダイエーが一貫して追求し、消費者も支持してきたのは、「よい品をどんどん安く売る」ローコスト・マス・マーチャンダイジング（低原価での大量商品化計画）にほかならない。それはまた、既存の流通機構や大手メーカーによる販売統制との闘いが宿命づけられるものだった。

ダイエー提供

安く売るための最も有効な方法は、当然商品自体の仕入れ値を下げることだが、そのためにダイエーは、在庫を抱える問屋から現金、または超短期決済で大量に商品を仕入れた。店舗がふえて販売量が膨大になると、メーカーとの直取引も始まったが、安値販売をやめなかった。

これに対して、医薬品や家電品、衣料品、食品などの一流ブランド・メーカーは市場での値崩れを恐れ、圧力をかけた。問屋にもダイエーへの販売を禁じた。こっそりダイエーへ流す問屋を商品の製造番号から割り出し、制裁を加えることまでした。

▲当初からオリジナル商品の開発に積極的だった。写真は店内に陳列されたダイエー・ブランドの洗剤。

▲昭和36年、1号店開店から3年目に国内では最大規模の三宮店新館をオープン。大量の商品を陳列した店内は活気に満ちており、衣料品の一日の売り上げは100万円を突破した。

ダイエー提供

こうした排除策に対抗するため、ダイエーは全国から商品を買い集めて「戦略備蓄」を行い、ディスカウント販売を継続。ところが、メーカー側はそれを店頭で買い占めた。「売価はうちが決める」というダイエーと、主導権を握り続けようとする大手メーカーのぶつかり合いは、さまざまな商品分野で繰り広げられた。家電メーカーによるヤミ再販問題（昭和四二年）や家電製品の現金正価（現在のメーカー希望小売価格）と実売価格に差がありすぎると指摘された不当価格表示問題（四五年）がクローズアップされたのも、その間の出来事だった。

結局、大半のメーカーは音をあげ、安値販売を認めざるをえなかった。

熾烈な闘いの一方で、ダイエー・ブランドによる商品開発に協力するメーカーも現れた。スーパーがメーカーに商品を作らせて自分で売るという、画期的なスタイルが日本で初めて登場した。

「ダイエーの歴史は戦う歴史である。競争を挑み、競争の中で自らを鍛えていく」とは、中内の著書『わが安売り哲学』の一節だが、ダイエーを旗手とした流通革命は、日本の小売業におけるスーパーの台頭をもたらしたのである。消費者のニーズに基づいて作られた商品が、消費者の「買いたい時」に、「買いたい価格」で、「買いたい量」だけ、「買いたい場所」で提供される社会、つまり消費者主権へ向かう扉を開いた。

そして今日、全国のスーパーは、売り場面積が五〇〇平方メートル以上の店舗だけでも一万一〇〇〇店に達し、その売上高は百貨店などを含む全小売業の一五パーセント近くを占めるまでにいたっている。

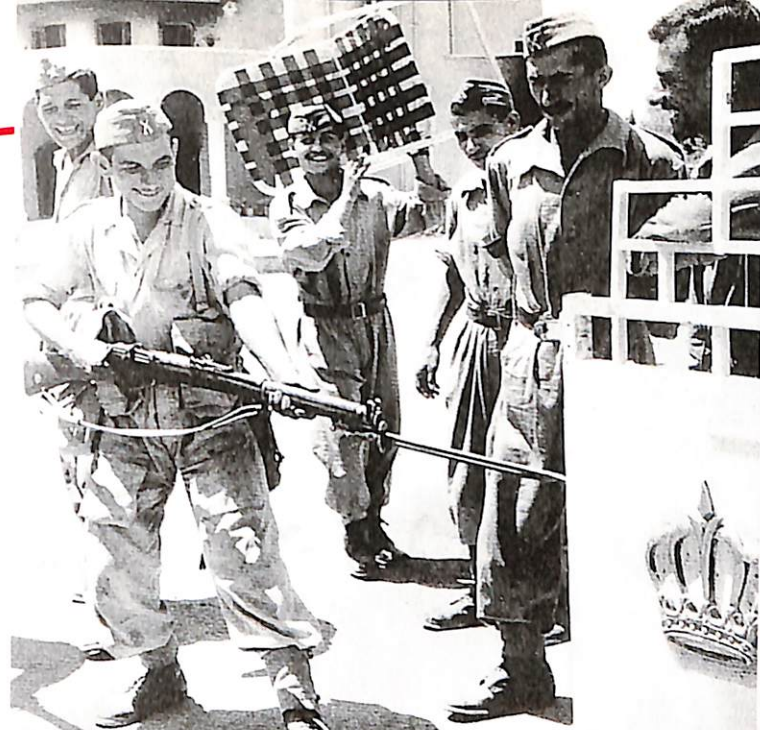
フォト＋日録で再現する365日

▲**王子製紙労組、無期限ストに突入（7月18日）**賃上げや期限切れの労働協約改定問題で紛糾、12月9日に中労委の勧告を受け入れるまで、第2組合と衝突するなど泥沼の長い争いが続いた。

毎日新聞社

▼**最後の引揚げ船に共産党員ら密出国者（7月13日）**579人を乗せた最後の引揚げ船「白山丸」が、中国から舞鶴港に入港すると、待ちかまえていた警察官が、密出国容疑で共産党員ら58人を逮捕した。

朝日新聞社

▲**イラクで軍事クーデター（7月14日）**国王ファイサル2世らが殺害され、カセムを首相とするアラブ民族主義者が政権を奪取。同国の石油に依存する西側諸国をあわてさせた。

▼**諫早で追悼慰霊祭（7月25日）**1年前のこの日、長崎県諫早市を中心にした豪雨で本明川が氾濫、死者・行方不明者992人を出した。当時の悲嘆を胸に市民1万5000人が集まった。

朝日新聞社

昭和33年7月

1（火）●職業訓練法施行。技能労働者の養成をめざす。
●平尾昌晃の「星はなんでも知っている」発売。
2（水）●横浜で売血代金のうわ前をはねた八人を逮捕。
3（木）●産業計画会議、国鉄の分割民営化を勧告。
●最高裁、「村八分は犯罪」との二審判決を支持。
4（金）●NHKなど三社、東京タワー使用契約に調印。
5（土）●四日市市教育長、勤評問題から首つり自殺。
●アラビア石油、クウェートと沖合海底油田開発の協定に調印（初の海外油田開発）。
6（日）●六本場所制初の大相撲名古屋場所始まる。
7（月）●琉球行政府主席、軍用地問題で米と共同声明。
●国鉄幹線調査会、東海道新線の早期着工答申。
8（火）●テレビは五・三世帯に一台など都の家計調査。
9（水）●警察庁、初の重要凶悪犯特別手配を指示。
●造船疑獄の飯野海運関係の九被告に初判決。
10（木）●警視庁、交通騒音への罰則強化策を決定。
11（金）●『建設白書』発表。一級国道の七割が未舗装。
●近鉄が二階建て電車ビスタカーの運転を開始。
12（土）●「喜劇・駅前」シリーズ第一作「駅前旅館」封切。
13（日）●中国からの最後の引揚げ船「白山丸」が舞鶴へ。
14（月）●三重県教組、勤評に反対し日宿直拒否闘争。
15（火）●大田区の製薬工場で爆発。一三人が死亡する。
16（水）●公取委、クリーニング料金の値上げ協定は、独禁法違反と同業組合に警告する。
17（木）●警視庁、池袋で愚連隊一斉摘発、四五人検挙。
●経企庁、前年の国民一人当たりの所得が九万八〇〇〇円で、前年より一一㌫増と発表。
18（金）●共産党、香山健一ら学生党員一六人を除名。
19（土）●広島県知事へ同県からのパラグアイ移民団の嘆願書「収入皆無、救援頼む」が届く。
20（日）●「週刊朝日」に「団地族」の特集記事（流行語に）。
21（月）●共産党、一一年ぶりに全国大会を開催。
●芥川賞に大江健三郎「飼育」が決まる。
22（火）●ビキニ西方で被爆の海上保安庁船に帰国指令。
23（水）●東海・関東に台風一一号来襲。二一人が死亡。
24（木）●マスコミ各社、皇太子妃報道の自主規制決定。
25（金）●建設省、下水道緊急整備五ヵ年計画を発表。
26（土）●福井市で「機屋」一五〇〇人が不況突破大会。
27（日）●兼高かおる、旅客機での世界一周新記録達成。
28（月）●紡績協会、不況対策に余剰綿布買い上げ決定。
29（火）●競馬・競輪・競艇場の新設認めずと閣議合意。
30（水）●東京・府中市の花火工場が爆発。一一人死亡。
31（木）●政府、レバノン国連監査団への自衛隊派遣要請を拒否するよう松平国連大使に訓令。

証言・あの日この日

木山捷平（54）

6月19日（木）〈桜桃忌に行く。高橋君と一緒に。女学生の参加者多し。……物故した作家で追悼忌が催されているのは芥川龍之介の河童忌、久米正雄の三汀忌などが主たるものだが、太宰の桜桃忌は年々盛大になっている。今年こんなに盛んになったのは、「『走れメロス』が高校の教科書に採用されたためでしょうか」と美知子夫人は語っていた〉（木山捷平『酔いざめ日記』）

昭和23年6月に太宰が玉川上水に入水心中して、この日でちょうど10年。前年の桜桃忌の参列者は約90人。この日はその「倍以上で世話役をあわてさせた」。しかも目立つのは太宰の活躍時代を知らぬ若い世代だ。文学青年たちのカルト作家だった太宰治は『走れメロス』が教科書に載った頃から女子学生を中心にさらに多くの読者を獲得し、その人気はいまだ根強い。（坪内祐三）

▶**甲子園に沖縄代表が初出場（8月8日）**第40回記念大会に初出場した首里高校は47校中、最後列から入場。第1試合で福井代表の敦賀高校に3対0で敗れたが、終始大きな拍手をあびた。

▼**軽井沢の皇太子と美智子さん（8月10日）**避暑先でテニスを楽しむ皇太子の後ろに、正田美智子さんの姿が。この頃、皇太子妃をめぐるスクープ合戦の激化のため、マスコミは自粛の報道協定を結んでいた。

朝日新聞社

読売新聞社

▶**山中毅、200メートル自由形で世界新（8月17日）**東京・神宮プールの日本選手権最終日に2分3秒3の快泳。未公認世界記録には0秒1およばなかった。写真は2着のチャプマン（豪）から祝福される山中。

▼**京大隊、チョゴリザ初登頂（8月4日）**頂上に立ったのは桑原武夫教授を隊長とする京大学士山岳会遠征隊10人のうち、藤平正夫、平井一正の2人。チョゴリザはカラコルム山脈中央部7654メートルの高峰。

京大カラコルム探検隊／朝日新聞社

読売新聞社

▲**全日空機、伊豆下田沖で墜落（8月12日）**羽田発名古屋の小牧空港行きのダグラスDC3型機が墜落、乗員・乗客33人全員が死亡。運輸省が事故原因を調査したが、翌月、「原因の追求は不可能」と発表した。

朝日新聞社

昭和33年8月

1（金）●日本対ガン協会設立（会長・塩田広重）。
●ビクター、初の国産ステレオレコードを発売。
●若原一郎「おーい中村君」のレコード発売。
2（土）●学校給食を「量から質へ」と文相に審議会答申。
3（日）●台東区で車の通行を禁じる児童遊戯道路開設。
4（月）●京大登山隊、ヒマラヤのチョゴリザに初登頂。
5（火）●三井物産と第一物産、合併契約書に調印する。
6（水）●警視庁、麻薬密売で暴力団幹部ら二八人逮捕。
7（木）●不況で賃金不払い増加、と労働省の情勢報告。
8（金）●原潜「ノーチラス」が北極点を潜水航海と発表。
9（土）●文部省、小学生が前年より五三万五〇〇〇人増加し、過去最高と調査結果を発表。
10（日）●国連、核実験の悪影響を示唆する報告書公表。
11（月）●那覇市で第一回の沖縄軍用地問題の現地折衝。
12（火）●全日空機が伊豆下田沖で墜落。三三人死亡。
●貨物船「ねばだ丸」、横浜―サンフランシスコ間を九日と一五時間一〇分の新記録で横断。
13（水）●通産省、競輪益金の配分決定。癌研に一億円。
14（木）●自民党の河野一郎、次期戦闘機種問題（グラマン疑惑）で防衛庁長官に再検討を申し入れ。
15（金）●閣議、三四年度までに織機七万台を買い上げて処分するなど繊維不況対策を決める。
16（土）●和歌山市で勤評反対のデモ隊と警官隊衝突。
17（日）●横浜港の労組、地対空誘導弾エリコン56の陸揚げを拒否する（24日、横須賀基地に陸揚げ）。
18（月）●国連、中東調停に関する七ヵ国決議案を公表。
19（火）●市川雷蔵主演の映画「炎上」封切。
●第一回技術士試験合格発表。最年少は三〇歳。
20（水）●秋田市で八郎潟干拓事業の起工式を挙行する。
21（木）●都立小松川高校で女子生徒の絞殺死体が発見される（9月1日、一八歳の容疑者逮捕）。
22（金）●国連総会日本代表に藤田たき任命。初の女性。
23（土）●米軍、沖縄のB円軍票のドル切り換えを発表。
24（日）●全日本中学校放送陸上競技大会で、小児麻痺を克服した選手が走り高跳びで優勝する。
25（月）●政府、ココム緩和に応じ輸出承認品目を改定。
26（火）●首里高校が持ち帰った甲子園の土が植物防疫法に触れると、那覇港で海中に投棄される。
27（水）●千葉県、県下三七病院を癌相談所に指定（9月1日から全国初の県費での癌診療を開始）。
28（木）●文部省、週一時間の道徳教育を義務化と通達。
29（金）●PTA全国協議会、勤評の原則支持を決定。
30（土）●京浜地区でヒロポン犯罪が急増、と新聞に。
31（日）●横浜市で米軍の戦闘機が墜落。五戸全半壊。

▼**スリルいっぱい、海上ジェットコースター(9月30日)**千葉県習志野市の谷津遊園に、総工費3300万円をかけて完成した。全長600メートルと日本最長で、一部が海の上を走るため、スリルは満点だった。

京成電鉄提供

読売新聞社

▲**魚河岸を見学、ソ連漁業部長イシコフ(9月6日)**来日中のイシコフ(中央)が、ジョイコフ漁業施設研企画部長とともに、中央卸売市場を訪れ、活気あふれるセリを珍しそうに眺めていた。

読売新聞社

▲**台風22号で狩野川氾濫(9月27日)**前日、江ノ島に上陸した台風は関東地方を縦断。400ミリの豪雨で狩野川が各地で決壊、中伊豆だけで死者331人、全国の死亡・不明は1269人だった。

▶**新宿東口マーケット取り壊し(10月28日)**東京都は、建築基準法を無視し、都有地を不法占拠していた食堂「聚楽」周辺と旧和田組マーケットを、駅前の区画整理のため取り壊した。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲**行司・伊之助の抵抗(9月14日)**秋場所初日の栃錦対北の洋戦で、検査役は4対1で北の洋の勝ちとしたが、立行司・式守伊之助(右端)は、土俵をたたいて栃錦の勝ちを主張。これが原因で引退に追いこまれた。

昭和33年9月

1(月)●最高裁、公判中や起訴後に逃亡した五千余人の全国一斉点検を始める。
●警視庁、自転車の防犯登録制度を実施する。
2(火)●東京池袋署、暴力団資金源の屋台を営業禁止。
3(水)●ジュネーブの原子力平和利用国際会議で、日本が原子力移民船の建造計画を発表。
4(木)●中国、領海一二カイリを声明(5日、日本否認)。
5(金)●原水協理事長・安井郁、レーニン平和賞を受賞。
●沖縄教職員会、米民政府に日章旗掲揚を陳情。
6(土)●文部省、道徳教育指導者講習会を強行開催。
●通産省、全国の百貨店に割賦販売自粛を勧告。
7(日)●西武電車に米兵の暴発弾があたり学生死亡。
●「無法松の一生」にベネチア映画祭グランプリ。
8(月)●京都市の生長の家道場で床が抜け三九人負傷。
9(火)●外務省、外貨不足を理由にAA作家会議に参加する遠藤周作ら五人の旅券申請を差し戻す。
10(水)●最高裁、共産圏渡航者の旅券制限に合憲判決。
11(木)●外務省、一〇万人の海外移住五ヵ年計画発表。
12(金)●釜石製鉄所でガス管が破裂。三四人重軽傷。
13(土)●日本学術会議、広島・長崎で子どもの発育や遺伝的影響を日米共同調査で実施と発表。
14(日)●世田谷区、祭りから愚連隊排除のため神輿中止。
15(月)●勤評反対全国統一行動。九〇万人以上が参加。
16(火)●国連、経済・財政委員長に萩原徹を任命。
17(水)●文部省、小中学校の「学習指導要領」を発表し、儀式での日章旗掲揚と「君が代」斉唱を強調。
18(木)●総評、王子製紙労組に約一億円の融資を決定。
19(金)●長野県神坂村で、岐阜県中津川市への越県全村合併を求める村民が集団で児童の登校拒否。
●アルジェリア民族解放戦線、臨時政府を樹立。
20(土)●三菱ボンネル、新合成繊維ボンネルを発売。
21(日)●天候不順となべ底不況で電器不振、と新聞に。
22(月)●葉タバコ汚職事件で専売公社課長ら逮捕。
23(火)●大分沖で貨物船「津久見丸」沈没。一二人不明。
24(水)●厚生省、国民年金制度第一次要綱案を発表。
25(木)●全国一斉に学力テスト。二四八万人が受験。
●福岡県大昇炭鉱でガス爆発。一四人が死亡。
26(金)●狩野川台風。全国で死亡・不明一二六九人。
●仏映画「死刑台のエレベーター」封切。
27(土)●インドのプラサド大統領、国賓として来日。
28(日)●名古屋駅西の商店街で出火。九六店舗全半焼。
29(月)●東京地裁、売春汚職で前代議士二人に有罪。
30(火)●横須賀の日本飛行機工場、米軍からの受注分の生産完了で全従業員二九八六人を解雇。

毎日新聞社

▲**三原山、噴火活動活発化(10月12日)**黒煙を噴き上げて爆発、四方に火山弾をまき散らしていたが、一時鎮静化した。しかし、この日噴煙を1000メートルにまで上げ、再び活動が活発になった。

▼**明治神宮、再建(10月7日)**昭和20年の空襲によって、社殿のほとんどが焼失したが、総工費5億円と、6000本のヒノキを使ってこの日工事を終え、10月29日から遷宮奉祝が行われた。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲**不動の4番、川上引退(10月21日)**日本シリーズ後の記者会見で、「泥にまみれないうちに」と心境を語り、18年のプロ野球生活にピリオドを打った。終身打率3割1分3厘、背番号16は永久欠番となった。

▶**ポール・アンカ来日(9月6日)**前年、16歳になったばかりで作曲した「ダイアナ」や「君は我が運命」が、日本でもこの春大ヒット。浅草・国際劇場のショーでは、ハイティーンの少女たちに熱狂的な歓迎を受けた。

読売新聞社

読売新聞社

▼**天皇・皇后、ゴッホ展を見学(10月15日)**東京・上野の国立博物館で「ファン・ゴッホ展」が開幕。晩年の傑作「三本の木」をはじめ、多数の代表作が展示された。

▲**警職法改正で国会混乱(10月11日)**法案が地方行政委員会に付託されると、絶対反対の社会党議員は委員会室を占拠(写真)、自民党議員と何回も乱闘騒ぎを起こした。

読売新聞社

昭和33年10月

1(水)●国税庁、翌年から実施のメートル法にそなえ、酒の量り売りを二〇〇ミリリットル単位にする。
2(木)●千葉県小見川町で渡し船が転覆。二人死亡。
3(金)●デモ取材記者に暴行した機動隊員二人送検。
4(土)●岸首相、安保条約改定の第一回日米会談開く。
5(日)●日本黄十字会、創立。結核患者の支援が目的。
●バリトン歌手・栗林義信、イタリアのビオッティ国際声楽コンクールで金メダルを受ける。
6(月)●所沢市で脱走米兵がタクシー内で短銃発射。
7(火)●「弁慶号」などが第一回鉄道記念物になる。
8(水)●戦後初めてソ連とサハリン産原油の輸入契約。
●政府、警察官職務執行法改正案を国会に提出。
9(木)●巨人の長嶋茂雄、セ・リーグの新人王を獲得。
10(金)●朝鮮総連、帰国希望者支援を藤山外相に要望。
11(土)●警職法反対の社会党、委員会室占拠(~14)。
12(日)●学術会議観測団、南太平洋で皆既日食を観測。
13(月)●核融合懇談会(会長・湯川秀樹)が第一回会合。
14(火)●岸首相が憲法九条廃止を主張と米NBC報道。
●音楽家・安藤こうが女性初の文化功労者に。
15(水)●焼津市で集団赤痢発生。子ども一四〇人感染。
16(木)●社会党などが警職法改悪反対国民会議を結成。
17(金)●浅草観音本堂の開帳法要に三〇万人の人出。
●高島屋、ニューヨーク五番街に開店する。
18(土)●ピエトロ・ジェルミ監督・主演の伊映画「鉄道員」封切(ルスティケリの音楽もヒット)。
●フラフープが東京のデパートで発売される。
19(日)●国体開幕。ブラジル選手団が初の特別参加。
20(月)●警視庁が一斉街頭補導。若者一〇七九人補導。
21(火)●プロ野球の西鉄が「奇跡の四連勝」で日本一に。
●東大で犬の肝臓を使った肝硬変手術に成功。
22(水)●松川事件の無実訴える松川大行進が仙台出発。
●国産初の長編アニメ「白蛇伝」が公開される。
23(木)●ソプラノ歌手・今井久仁恵、日本人で初めてメトロポリタン歌劇場と専属契約を結ぶ。
24(金)●中国抑留の漁船員一二二人が釈放され帰国。
25(土)●日本がカタールに石油試掘申請、と中東通信。
26(日)●在京四女子大が警職法反対大学協議会を結成。
27(月)●西独経済相、日本の低賃金は脅威と記者会見。
28(火)●日教組、勤評反対の第二次統一行動を実施。
29(水)●明治神宮新社殿が完成し、遷宮奉祝祭始まる。
●パステルナーク、ノーベル賞受賞辞退を通告。
30(木)●東大伝染病研究所、日本で初めてはしかウイルスの分離に成功したと学会で発表する。
31(金)●フランキー堺主演「私は貝になりたい」放映。

◀ビジネス特急「こだま」、運転開始（11月1日）午前7時、くす玉の紙吹雪に見送られ、第1便がゆっくりと東京駅を出発した。東京—大阪間を1日2往復、6時間50分で結び、関西までの日帰りが可能となった。

朝日新聞社

▼放浪の画家、一日司令に就任（11月4日）東宝映画「裸の大将」のモデルとなった山下清が、航空自衛隊浜松基地で閲兵を行った。「空将というのは、昔の少将かな。ネクタイを締めるのが昔と違うな」と終始ご機嫌だった。

読売新聞社

▲松川事件、最高裁で口頭弁論（11月5日）二審で有罪となった被告が最高裁に上告した。この日被告の無罪を主張して支援の中心となった作家の広津和郎が姿を見せた。広津は10回の口頭弁論のうち9回を傍聴した。

読売新聞社

読売新聞社

慶応義塾大学提供

◀皇太子、婚約（11月27日）岸首相を議長とする皇室会議が開かれ、全員一致で皇太子妃に正田美智子さんを承認した。写真は宮内庁を出る正田英三郎夫妻と美智子さん。

▲慶応義塾、創立100周年（11月8日）横浜市に新築された日吉記念館に天皇を迎え、卒業生6500人が出席して記念式典が行われた。創立は1858年（安政5）10月。

昭和33年11月

1（土）●東京—神戸間に特急「こだま」運転開始。
2（日）●浅草神社の船祭りが一〇〇年ぶり再現される。
3（月）●淡路島の養老院で七〇歳以上の五組が結婚式。
4（火）●自民党、警職法審議のため会期延長を強行。
5（水）●反警職法闘争が激化。各地で統一行動展開。
6（木）●王子製紙春日井工場の第二組合員三〇〇人が第一組合のピケを破り五四日ぶりに帰宅。
7（金）●東京タワーから男性が飛び降り。初の自殺者。
8（土）●相撲協会、物言いには行司にも発言権と発表。
9（日）●日本人の胃癌死亡率は世界二位と癌学会報告。
10（月）●文部省、教科調査官・視学委員両制度を新設。
11（火）●江藤淳ら戦後派文化人約四〇人が、「若い日本の会」を結成。警職法反対の声明を採択。
12（水）●公取委、六〇社に下請けへの支払い勧告決定。
13（木）●新聞協会、「週刊明星」の皇太子妃内定記事は報道協定を無視したものと雑誌協会に抗議。
●宝塚歌劇団の時間外賃金の一部未払いに、西宮労基署が労基法違反と判定する。
14（金）●全日本事業生活協同組合連合会が創立総会。
15（土）●舞鶴地方引揚援護局が一四年目に廃止される。
16（日）●日紡貝塚バレー部、初の四大タイトルを独占。
17（月）●東京高裁、昭電疑獄裁判で西尾末広（すえひろ）に無罪。
18（火）●国語審議会、送りがなのつけ方の基準を発表。
19（水）●日本自動車工業会、一〇月の輸出は一六七〇台・二四八万ドルで、戦後最高と発表。
20（木）●農協の預金残高が一五七八億円と過去最高に。
21（金）●フラフープで腸捻転（ねんてん）などの事故続発と新聞に。
22（土）●岸首相と鈴木社会党委員長が会談し、警職法を審議未了で廃案にすることで合意。
23（日）●東京の豊島園で屋内スキー場が開場。
24（月）●学習院大、東都大学野球リーグで初優勝。
●八ミリ映画ブームで撮影機月産二万台と新聞に。
25（火）●井本陸将、自衛のために核兵器は必要と発言。
●東京・三宅坂のパレス・ハイツが米軍から返還される（跡地に最高裁判所と国立劇場建設）。
26（水）●運輸省、初のユース・ホステル建設地を発表。
27（木）●皇室会議、皇太子妃に正田美智子さんを承認。
●文部省、新小学生の健康診断義務化を通達。
28（金）●日銀政策委員会、農業手形制度の廃止を決定。
●アジア経済研究所、設立（理事長・小林中（あたる））。
29（土）●通産省、初の『映画産業白書』を発表。新作二本立て配給による採算悪化と質の低下を指摘。
30（日）●NHK、国産初のVTR試作機を公開する。
●第二回世界柔道選手権で日本が三位まで独占。

▲▼東京タワー一般公開（12月24日）電波発信の中継基地として32年6月に着工、建築構造学の内藤多仲が設計、高さ333メートル、総工費28億円、鋼材4000トンを要した。写真上は33年7月、下は同年2月に撮影。

日本電波塔提供

▶アンドレ・マルロー来日（12月8日）ド・ゴール首相の特使として、作家で国務相のマルローが来日。岸首相と日仏文化交流で会談後、記者会見で「日本の魂をフランスに伝えたい」と語った。

毎日新聞社

読売新聞社

▲名古屋のシンボル、金の鯱完成（12月18日）大阪造幣局で製作されたもので、体長2.62メートル、うろことひれに使われた18金の金板は560枚。翌年8月、名古屋城大天守へ取り付けられた。

▼米テキサス・インスツルメンツ社、IC開発（12月）技師のジャック・キルビーが開発した固体回路と言われるもので、軍事用だったが家電製品にも使われ、電子機器の小型化に貢献した。

日本テキサス・インスツルメンツ提供

毎日新聞社

◀1万円札、初登場（12月1日）14色刷りで、絵柄は中央に法隆寺夢殿の透かし、右側に聖徳太子の肖像。この日、師走の町へ出まわった約17万枚は、「いざという時、見ておかないと困るから」という見本用だった。

▶「月光仮面」姿の七五三（11月15日）各地の神社は晴れ着姿の親子でにぎわった。テレビの影響からか、明治神宮には「月光仮面」やカウボーイスタイルの変わり種も登場し、周囲の人々をビックリさせていた。

昭和33年12月

1（月）●一万円札発行。一四色刷りで肖像は聖徳太子。
●女性向けの週刊誌「女性自身」が創刊される。
2（火）●フィリピン大統領、外国元首で初の国会演説。
3（水）●東京高裁、酔って日本人を射殺し、心神喪失（しんしんそうしつ）として一審無罪の米兵に逆転有罪の判決。
4（木）●浅間山が三回爆発。次いで大島三原山も噴火。
5（金）●核実験で放射性物質の降下量増大と学術会議。
6（土）●NBC呉（くれ）造船所で世界最大のタンカー、「ユニバース・アポロ号」（一〇万四五〇〇トン）進水。
7（日）●「続二等兵物語」ロケで火薬爆発。五人重軽傷。
8（月）●カイロで第一回アジア・アフリカ経済会議。
9（火）●茨城県小川町で基地反対派町長をリコール。
●丸正（まるしょう）事件（30年）控訴審、一審の無期判決支持。
10（水）●共産主義者同盟結成（書記長・島成郎（しげお））。
11（木）●高知県立安芸（あき）高校生徒、勤評反対闘争を行った教師の処分撤回を求め、知事らを軟禁する。
12（金）●過半の小中で一学級五一人以上と都教組調査。
13（土）●売春防止法施行以来七ヵ月間に全国で同法違反者一万二二四〇三人を検挙、と警察庁が発表。
14（日）●中労委、炭労争議に職権斡旋（あっせん）提案（18日妥結）。
15（月）●小林日教組委員長、高知県で勤評闘争に反対する父兄に襲われ重傷（21日、五人逮捕）。
16（火）●毎日新聞下関支局員が暴力団員に刺され重傷。
17（水）●引揚同胞対策審、未帰還者の調査徹底を決議。
18（木）●フィリピンと四四三〇万ドルの賠償引当で合意。
●米、大陸弾道弾（ICBM）の試射の成功。
19（金）●大蔵省、中小企業退職共済制度を認可と決定。
20（土）●外貨債発行法公布、施行。一〇八億円を限度。
21（日）●仏第五共和政で初の大統領にド・ゴール当選。
22（月）●間（はざま）組、新東宮御所の今期工事を一万円で落札（26日同社は落札を撤回、七社の共同工事に）。
23（火）●東京タワー（三三三メートル）の完工式が挙行される。
24（水）●都議会で山本嘉次郎（かじろう）らが都政をきく会を開催。
25（木）●東京地裁、売春斡旋の一二被告に有罪判決。
●水質保全と排水規制に関する二法を公布。
26（金）●本州製紙、江戸川工場の汚水問題で四漁協に二二〇〇万円の補償を提示し、妥結する。
27（土）●国民健康保険法公布（34年1月1日施行）。
●池田勇人（はやと）ら自民党反主流派の三閣僚が辞任。
28（日）●日教組中央執行委員会、勤評に代え教師が自己申告する神奈川方式を五票差で否決する。
29（月）●自民党反主流四派が連合し、刷新懇話会発足。
30（火）●鎌倉市の教会で強盗を神父らが取り押さえる。
31（水）●東海大学、FMの実験放送を開始する。

我楽多市

流行語
「トンボ返り」で歩合を稼ぐ

高速道路網が未整備だったこの頃、長距離トラックの運転手が、休みなしにフルスピードで走り続けることは当たり前だった。歩合給の彼らにとって、休むこととゆっくり走ることは、そのまま稼ぎの減少を意味したからだ。

その結果、東京—大阪間を規定通りに走ると、二九時間かかるところを一五時間で飛ばし、荷をおろすと、即東京へ引き返す猛者も出てきた。これが「トンボ返り」。

その後は代議士が週末に選挙区へ帰り、週明けに東京へ戻るのをさすようになった。

「ながら族」。テレビを見ながら食事をする子どもや、音楽を聞きながらでないと勉強に集中できない高校生や大学生たちのこと。そういう若者がふえ、その傾向を日本医大の木田文夫教授が〝ながら神経症〟と名づけたことがきっかけで流行した。

「しびれる」。この頃、歌手の三橋美智也は独特の高音で「おんな船頭唄」「リンゴ村から」「哀愁列車」など、次々にヒット曲を出していた。その歌に女性ファンが「しびれるう！」と絶叫したことから広がった。

▲作・川内康範、画・桑田次郎の「月光仮面」（「少年クラブ」連載）。

ルーツ
帝国ホテルに、日本初のバイキング料理登場

昭和三三年八月、帝国ホテルに「インペリアル・バイキング」という店がオープンした。これが日本のバイキング料理の第一号で、バイキングという名称もこの時つけられた。

バイキングは北欧では「スモーガスボード」と呼ばれている。これは、友人、知人が料理を持ち寄って食べるという北欧の伝統的な食事スタイルをさしているが、これではなんとなくインパクトが弱い。ちょうどその頃、カーク・ダグラス主演の映画「ヴァイキング」がヒット中だったので、豪快な食べ方と北欧のイメージを重ねてバイキングと命名した。それが大ヒット、食べ放題料理の代名詞として、アッという間に広がったという。開店当時はすべて予約制で、料金は昼一二〇〇円、夜一五〇〇円だった。

（「サンケイ新聞」四月一七日）

データ
雑誌は「平凡」が断然人気 ハワイのベストセラー

ハワイの日系人（約一六万人）に人気のある雑誌や本を調べてみると（数字は一ヵ月の販売部数）、

①平凡　二〇〇〇部
②明星　一三〇〇部
③実話雑誌　六五〇部
④主婦の友　六〇〇部
⑤文藝春秋　三五〇部

週刊誌は、「週刊朝日」で月に四〇〜五〇部といったところ。なおこの年、ハワイの日系人社会における最大のベストセラーは、三島由紀夫の『美徳のよろめき』と蜂須賀年子『大名華族』であった。

（『日本週報』一一月五日号）

ファッション
寝巻きを必要としない女性とは

東京芸大でデザインを学ぶ女子学生五人が、本当に必要な衣類とは何かを探るため、一〇代から五〇代までの女性八二四人を対象に寝巻きの調査を行った。その結果は次の通り。

浴衣　四四一
タオル　一八八
パジャマ　一六三
ネグリジェ　九九
なにも着ない　六

（「週刊読売」三月三〇日号）

物価
デモ用グッズのお値段は?

警職法反対などの文字を入れたデモ隊用タスキ四〇円、ハチマキ三〇円、腕章一五円。

夜のビル掃除のバイト代は一時間五〇円。

簡易宿泊所の宿泊代は一泊一〇〇円、貸しマクラ五円、冬のフトンの追加は一枚一〇円。

▲アサヒビールは、9月15日、スチール缶使用「缶入りアサヒ」を発売。

アサヒビール提供

新聞CM 「有楽町0番地——有楽フードセンター」（現・銀座インズ） **CM100年**

ご存知ですか 有楽町0番地
明日開店
午后3時より開店させて頂きます
食べもののABCからZまで 全国の味を集めて180余店
年中無休
営業時間
1階——午前10時—午後9時
地階・2階—午前10時—午後11時
有楽フードセンター
TEL 大代表（56）0461

美女倶楽部 伴田良輔・選

▲皇居の桜田門をバックに撮影されたこの作品は、屋外ヌード、しかも皇居ということで個展開催中に警察庁の取り調べを受けることになった。肉体の門はこちら、と言いたげな女二人のアーチが意味深だ。　撮影・杵島隆

三面記事
火葬ガマの中に、生き仏が

［岡山発］玉島市（現・倉敷市）営火葬場のカマはさる六月末に完成したが、道路の都合でまだ店開きしていないところから、死人ならぬ生き仏が連日数十人も、このカマの中に入って手をあわせている。というのは、誰言うとなしに伝わった、〝使用していない火葬場の焼きガマに入れば中風にかからない、長生きができる〟などの迷信から、中年以上の、特に女性が詰めかけ、管理人にカマの蓋を開けてもらって、しばしの間、横になっているのだそうだ。ある老人は〝カマの中はひんやりしていい気持ちです。これで中風とも縁が切れます〟と満足そうな顔だったが、さる五日には観光バスで約六〇人が訪れるなど大繁盛、管理する市を驚かせている。

（「山陽新聞」八月七日）

都内のヤクザは五五〇団体、一万七〇〇〇人

一口にヤクザと言っても、今ではだいたい博徒、テキヤ、愚連隊の三つに大別できる。東京の博徒には昔から〝三七人衆〟といわれるばくち打ちの大親分がいた。小金井一家、碑文谷一家、住吉一家、佃政一家などがその代表的な例で、大親分を総長といい、その下に貸元、代貸、出方、三下奴という階級が、現在でも厳然として作られている。

テキヤは伝統的な露店商人の団体で、東京には総家が三九、分家一八九があるが、なかでも有力なのは飯島一家である。全日本飯島連合会を組織しており、現会長は浅草、新宿に根を張る和田組の和田薫氏。昨年までは、「光は新宿より」のスローガンで戦後の新宿を支配した尾津喜之助氏が、一〇年以上会長をつとめていた。

街のダニとして嫌われているのが愚連隊だが、最近は愚連隊ほどまとまりがないグループがふえてきた。警視庁ではこれを愚連隊類と呼び、都内に約二〇〇グループ、三〇〇〇人いると踏んでいる。

（「週刊朝日」七月六日号）

▲若原一郎の「おーい中村君」（キングレコード）。

待遇は、野良イヌ以下? 売春婦更生施設の食費

売春防止法が実施されてから八ヵ月、東京の場合、警視庁では売春Gメン一〇〇人を配置して、組織売春を根こそぎにしようと力を注いできた。赤線禁止の四月から一一月まで、このアミにかかった売春女性は、四八二九人……。街頭の女は客引きの現行犯で捕まると、地検—更生保護相談室—更生保護寮という順で全国四九ヵ所にある施設に入るが、保護施設とは名ばかりで、公立施設での食費は一日たった六一円六六銭。東京都の野犬留置所ではイヌの餌代が一日七九円五五銭というのだから、イヌよりお粗末。

（「読売新聞」一二月二四日）

セックス
アメリカ女性の一〇%は、結婚前に妊娠する

「キンゼー報告」で有名なアメリカのキンゼー性問題研究所が『妊娠、出産、堕胎』を出版した。上流階級の白人女性五二九三人にインタビューしたもの。

それによると女性一〇人中一人は結婚前に妊娠している。内訳は一五歳以下一〇〇〇人に一人、一八歳まで同じく一四人、二〇歳以下は三三人、二五歳以下は七五人。三〇代と四〇代は一〇〇人見当。

一方、結婚前に性関係を持った女性の三一%は独身のうちに妊娠し、三〇%は堕胎している。そのうち八六%は医者の手術を受けたといい、八%は自分で処理し、六%は産婆と婦人科の知識を持った人の手を借りたという。ただし医者といっても、その多くがもぐり医者と思われる。

（「週刊読売」三月一六日号）

この年の初もの
移動式公衆便所、大津市の祭りに登場

●**オムツ・サービス会社**　東京に登場。二〇枚三〇円、以下一枚ふえるごとに一円五〇銭。

●**塩の拾い屋**　バーや飲屋の入り口にある盛り塩をもらい残飯屋に売る。銀座から新橋で一〇人以上。

▲4月3日、NHKで放映が開始された「事件記者」。

世界の動き

「ド・ゴールか内乱か！」アルジェリア危機に再登場した“救国の英雄”

▲9月28日、コロンベの村で、新憲法制定のための国民投票をするド・ゴール。 ARCHIVE PHOTOS／ユニフォト・プレス

▲1958年6月1日、フランス議会での首相就任を控え、政府席に座るド・ゴール。その後、大統領の権限を強化する内容の新憲法を成立させ、翌年の1月、正式に大統領に就任。第5共和政が発足する。 WWP

一九五八年、アルジェリア危機の前にフリムラン内閣は政権を投げ出し、フランス政府は混迷をきわめた。フランス国民の期待の中、この年六月、野に下っていたシャルル・ド・ゴールを首班とする新内閣が成立する。フランスの再生は再び、“対独レジスタンスの闘将”ド・ゴールにゆだねられた。

戦後最高の投票率八三％新憲法へ圧倒的な支持

この年九月二八日、フランスでは新憲法の草案と大統領選挙をめぐり、国民投票が行われた。ド・ゴールが第二次大戦後、フランス臨時政府の首相となりながら、“独裁を夢見る誇大妄想狂”と揶揄されて政界を引退、第四共和政が敷かれてから一二年後のことである。この日、新憲法への期待は国民を投票に駆り立て、投票率八三％という戦後行われた選挙中、最高の投票率となった。

フランス本土では投票総数の実に八〇％、またアルジェリア、仏領西アフリカなどの海外領地でも圧倒的多数が承認、再登場したド・ゴール（六七）へラブコールを送った。ド・ゴールが住むコロンベの村では、反対票を投じたのは一九六票のうち、わずか一票にすぎなかった。選挙結果を見守っていたド・ゴールは「私は非常に満足した」と述べたという。

投票の結果を報じた「朝日新聞」（九月三〇日）は「今まで共産党に投票していた有権者の二割がド・ゴールに投票したことになる」として、「常に国民の不安が生じた場合は、最左翼に投票するというフランス人独特の歴史的心理が薄れ、今度は、二割がその不満解決をド・ゴールに託した」と評した。

第二次大戦中、第四装甲師団を指揮しドイツ軍を撃退、パリ陥落後はロンドンでフランス国民に反ナチスを呼びかけた“救国の英雄”のカリスマ性と政治的な豪腕を、フランス国民は支持したのである。

アルジェリアが引き金に本国にも飛び火した反乱

一九五三年にアルジェリアで独立戦争が勃発する。戦後、インドシナ、チュニジアなど、相次ぐ海外領地の離反が続いた中、アルジェリアは威信をかけても守らなければならない領土であった。しかし、その戦費は一日平均で約二〇億フランに達し、フランス経済に大きな打撃を与え、当時首相だったマンデス・フランスの努力にもかかわらず、政治的にも不安定さを増大させた。第四共和政のもとでも小党分立による政権抗争が絶えず、フランス解放後の一四年間に二五回も内閣が変わり、歴代政権の平均寿命は六ヵ月と二〇日という短命なものであった。

五八年五月一三日、アルジェリアの駐屯フランス軍と入植者の不満が爆発した。本国政府の弱腰に対する反乱であった。アルジェリア民族解放戦線（FLN）によるフランス兵三人の処刑を機に設立された公共治安委員会は、各都市に急速に広がっていった。一方、パリでもこの動きを支持する右翼のデモが繰り返される中、その収拾のため、翌一四日には、第四共和政最後の内閣となったフリムラン内閣が出現したが、その後、反乱はフランス本国、コルシカ島へも飛び火、事態はますます深刻さを深めた。

五月一五日の朝、アルジェリア駐屯軍の総司令官サラン将軍は、フランス系移民一万五〇〇〇人を前に演説を行い、「フランス万歳！　フランスのアルジェリア万歳！　ド・ゴール万歳！」と叫んだ。その六時間後、ド・ゴールは「今日、その当面する新しい試練に際して、私が共和国の権力を引き受ける用意がある」という声明を発表、これを機にド・ゴール再登場への期待は高まっていた。

共同通信社のパリ特派員だった堀義明氏は「軍の反乱はインドシナ戦争以来の政府の弱体と不決断に対する不満の爆発であった。軍は、自信をもって軍に命令のできる政府がないため、戦後今なおゲリラの掃討に従事しなければならぬわが身をかこったのである。フリムラン内閣が仏政府ここにありといくら言明しても守られず、（略）一般の空気はいつの間にか“ド・ゴールか内乱か”にしぼられていった」（「中央公論」五九年八月号）と記している。

六月一日、ド・ゴールを首班とする内閣が成立する。政権の座についたド・ゴールは、さっそく新憲法の起草に取り組む。この新憲法が九月二八日の国民投票で圧倒的に支持され、翌年の一月八日、ド・ゴールは正式に大統領に就任、ミシ

外から見たNIPPON

強制連行から一四年目 中国人・劉連仁の故郷への手紙

――佐伯 修

「親愛なる両親様

お別れしてからもう十数年になります。一枚の手紙も出さずにしまいましたが、皆の事はいつも気にかかっておりました。本当に申し訳ないと感じております。どうぞお許し下さい。今私は北海道の札幌に居ます。札幌に居る中国の仲間に助けられてすべてうまく行って、体も健康です。どうぞご安心下さい。ただ、今まだ処理しなくてはならない事があるので、もうすこしの間ここに居ます。その事が片付いたら帰るつもりでいます。お二人とも心配しないで、体を大切になさって下さい。それから私の妻はどうしていますか？ どうか彼女によろしくお伝え下さい」（野添憲治『劉連仁・穴の中の戦後』より）

これだけ読むと、勉強か出稼ぎの目的で日本へ来たまま、何かの都合で故郷に無沙汰をしていた中国人が、両親にあてて久しぶりに書いた手紙のように見える。

しかし、この一見平凡な手紙は、ヒグマも出る北海道の山中に、日本の敗戦前から一三年間もひそみ、この年二月九日に発見、救出された山東省の農民、劉連仁が、一四年ぶりに故郷に無事を伝えるものだった。ただし、貧しくて満足に教育を受けていない劉は、読み書きがほとんどできず、右の手紙も、札幌の華僑・席占明の代筆である。

それにしても山東省の農民が、なぜそんなところにいたのか。

劉は、一九一三年、つまり辛亥革命の翌翌年、山東省諸城県の村に生まれた。このあたりは、元来貧しく、東北（旧満州）への出稼ぎ地帯である。一九四四年八月、彼は対日協力派の中国兵により、身重の妻のいる自宅から連れ去られ、青島で日本船に乗せられて、最終的には北海道雨竜郡沼田村にあった炭鉱、明治鉱業昭和鉱業所に送られる。彼は、彼を連行した地元県知事から無理矢理「遊民」と決めつけられ、さらに、出国の際、「俘虜」と「労工」の二種類の身分証に拇印を押させられて、不当連行された者である事実を隠されていた。

炭鉱で〝タコ部屋〟同然にこき使われた劉は、脱走、以後一三年にわたる「世界的奇聞」の逃亡生活を送る。ひそんでいた穴の中で猟師に発見され、警察に保護された彼は、「没法子」と呟いた。直訳すれば「仕方がない」という常用句だが、処刑される中国人が、直前に口にする言葉だとも言う。

さて、劉の両親はすでに亡く、故郷の村は共産党政府になっても貧しかった。けれど妻と長男の待つ村へ、彼は帰っていった。

▶帰国後も故郷の村で農業を営み、今は隠居の身。

エル・ドブレを首相とする第五共和政が発足する。フランス国民は政府と軍の対立の解消、偉大なフランスの再生を実現できる唯一の人物としてド・ゴールを再度押し出したのだ。

アルジェリア問題は、ド・ゴールを熱望した国民の思惑とは裏腹に、分離独立の道を歩んだとはいえ、ド・ゴールの登場はフランスの危機を救い、フランスの存在を世界にアピールした。その後も米ソの覇権を極力牽制し、第三勢力としてのヨーロッパ連合をめざし、フランスの威信を高めたのである。

シャルル・ド・ゴール（1890〜1970）
リール生まれ。フランス臨時政府首相を経て一九四六年政界を退く。五九年、大統領に就任。六五年再選。六九年、国民投票で敗れて辞任。おもな著作に『ド・ゴール大戦回顧録』『希望の回想』がある。

▶アルジェリアの首都アルジェで、ド・ゴールのポスターを張り、投票を呼びかける兵士たち。

◀ド・ゴールにウイ（然り）でこたえるパリ市民。

WWP　ARCHIVE PHOTOS ユニフォトプレス

往きて還らぬ

▲10月11日　M・ド・ブラマンク(82)
フランスの画家。自転車乗りなどをしながら絵を独学。フォービスム派で、凍えるような寂しい風景画で知られる。

▲11月15日　タイロン・パワー(44)
映画俳優。ハリウッドの二枚目スター。セクシーな容姿で多くの女性を虜にした。主演映画「愛情物語」「情婦」など。

▲12月16日　三好十郎(56)
劇作家。昭和3年、処女作『首を切るのは誰だ』を発表。一躍左翼劇作家として注目を集めた。ほかに『浮標』など。

▲12月29日　石井柏亭(76)
洋画家、弟は彫刻家の鶴三。眼病のため美術学校を退学、渡欧。大正2年、日本水彩画会、二科会を創設した。

共同通信社
▲3月23日　山川均(77)
労農派の運動家。その主張は「山川イズム」と呼ばれ、社会主義運動に大きな影響を与えた。山川菊栄は夫人。

共同通信社
▲4月2日　戸田城聖(58)
創価学会の創設者。昭和12年牧口常三郎と創価教育学会を設立。18年不敬罪で検挙。21年に創価学会を再建した。

▲8月22日　R・M・デュ・ガール(77)
フランスの小説家。1913年ドレフュス事件を扱った『ジャン・バロア』で注目を集めた。代表作『チボー家の人々』。

▲9月20日　小笠原長生(90)
海軍中将。江戸時代の老中・小笠原長行の長男。日露戦争では、戦死者を「軍神」として顕彰し、戦意高揚をはかる。

▲2月15日　徳永直(59)
小説家。労働体験に基づく『太陽のない街』で、プロレタリア作家として注目を集めた。ほかに『妻よねむれ』など。

▶1月23日　北原怜子(28)
福祉活動家。東京・隅田川畔の下町で献身的な奉仕活動を行い〝蟻の街のマリア〟と呼ばれた。過労のため死去。

▼2月26日　横山大観(89)
画家。明治29年「屈原」を発表。没線描法で日本画に新境地を開いた。昭和12年第1回文化勲章を受章。

▲3月15日　久保栄(57)
劇作家、小説家。プロレタリア演劇のリーダーとしても活躍。戦後東京芸術劇場を創設。代表作に『火山灰地』など。

▲2月13日　ジョルジュ・ルオー(86)
フランスの画家。独特の重ね塗りの画風で知られ、道化師や辻芸人などを描いた。死後、国葬に付された。

ミニ事典

1958年のキーワード

素粒子論グループ

湯川秀樹、朝永振一郎、武谷三男らを中心とする全国の物理学者の組織。代表は梅沢博臣。昭和二七年に自主・民主・公開を原子力研究の三原則とすることを提唱。この年一月六日には原子力発電会社に、耐震構造に対する結論が出るまで、原子炉の購入を思いとどまるように要望する意見書を提出した。

街を静かにする運動

朝日新聞社 ▲福岡県では7月1日から運動が始まった。

交通騒音を減らすため自治体や警察が主導して行った運動。マイカーをはじめ車が急速に増大、都市部では深刻な騒音公害が起こってきたためで、おもに排気音とクラクションが規制対象となった。三月一日、まず大阪市が実施、東京都も五月から実施し、警笛回数は従来の八〇%減になり、交通事故も激減した。

越境入学

居住地によって決められる学区以外の小・中学校に転・入学すること。学区内の他家に身を寄せたことにする寄留をよそおうものが多かった。特に日比谷高校を経て東大へ進学するものが多い東京都千代田区の番町小学校、麹町中学校に多く、入学者の四〇%近くに達した。文部省は三月一三日、厳重取締りを通達。

毎日新聞社 ▲道徳教育実施で教育現場を視察する松永文相。

道徳教育実施要綱

文部省が三月一九日に各都道府県教育委員会・知事に通達した小学校・中学校の道徳授業の教育方法。翌年四月一日から教科として毎週一時間行い、生徒用の教科書、成績採点はないなどとした。九月六日には全国で教師への講習会を実施したが、修身の復活だとして反対する日教組らの阻止闘争に対し、警官隊に守られながらの強行開催だった。

日本貿易振興会

海外貿易振興会を改組、四月二六日に公布された日本貿易振興法に基づいて設立された貿易振興のための総合的機関。七月二五日、資本金二〇億円、政府全額出資の特殊法人として発足。略称ジェトロ(JETRO)。具体的活動として海外市場の調査、日本産品の輸出促進、海外見本市の開催・参加などを行う。

朝日新聞社 ▲6月8日、東京・学士会館での憲法問題研究会の初会合。

憲法問題研究会

大内兵衛、茅誠司、清宮四郎、恒藤恭、宮沢俊義、矢内原忠雄、湯川秀樹、我妻栄の八人が発起人となって、五月三〇日に発足。六月八日には、良心的な学者・文化人を集め、第一回の総会を開いた。昭和三一年に鳩山内閣が設立した憲法調査会が改憲イデオロギーを整備・普及する場となることを危惧、憲法擁護の立場を貫いた。

重要凶悪犯特別手配

未解決の凶悪犯罪事件について容疑者を公表し、広く民間からの情報を求める公開捜査。アメリカのFBIにならったもの。七月九日に初の試みが行われ、二一件・二六人の容疑者について人相・特徴・容疑内容などを記載した写真入り手配書一〇万枚が、全国の警察官・鉄道公安官などに配られた。この手配によって一年間で半数の一三人を逮捕した。

日本対ガン協会

癌制圧を目的とする国民運動を推進するために設立された財団法人。八月一日に発足。初代会長は東京大学名誉教授の塩田広重。日本では昭和二二年頃から癌による死亡が急増し、脳卒中に次ぐ死亡率を記録していた。協会は全国的な募金運動によって資金集めを行い、癌に対する知識の普及、治療設備の整備、研究の助成などの実施をめざした。

技術士試験

科学技術庁が、技術士法に基づき、科学技術に関する専門的事項についての研究・分析・設計・指導などを行う技術士を選ぶ国家試験。八月一九日に第一回試験の結果が発表になり、受験者一四六七人のうち九九一人が合格。技術関係の重役・高級官吏・学者の国家試験と言われ、最年少の合格者は三〇歳の女性だった。

警職法改悪反対国民会議

警察官の権限の大幅な強化拡大をねらう警察官職務執行法(警職法)改正案に対して反対運動を行った大衆組織。一〇月一六日、社会党の加藤勘十を議長とし総評を中心とする六五団体で結成、やがて加盟団体四〇〇、一五〇〇万人が結集する全国統一行動に発展。一一月二二日、政府・自民党はその圧力に屈し、警職法改正案を審議未了とした。

全日本事業生活協同組合

日本生活協同組合(生協)連合会が一一月一二日に設立した生協の取り扱い商品を共同で直接仕入れる中央機関。同月一四日に創立総会を開催。生協運動の広がりとともに小売業界による出荷停止などの圧力や大資本の流通系列化が進み、仕入れ確保が課題となってきた。事業連はその克服をはかるものだった。

アジア経済研究所

アジア(後に発展途上地域全般)への経済協力や貿易拡大をはかるため経済・政治・社会などを総合的に調査研究する通産省所管の財団法人。一一月二八日、東京・丸の内の銀行倶楽部で創立総会が開かれ、理事長に小林中が選任された。昭和三五年五月には機関誌「アジア経済」を創刊、七月に特殊法人に改組され、東畑精一が初代所長になった。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1958

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室+渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
杵島隆 斉藤和欣 津場貞雄 ドン・クラーベンス 平野美津子 ARCHIVE・PHOTOS 朝日新聞社 アフロ・フォトエージェンシー ALLSPORT 共同通信社 時事通信社 日刊スポーツ PPS 報知新聞社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP アサヒビール 京大カラコルム探検隊 黒澤プロ 慶応義塾大学 京成電鉄 GKグラフィックス シンコーミュージック ダイエー 大映 たばこと塩の博物館 東宝 日清食品 日本テキサス・インスツルメンツ 日本電波塔 ビクターエンタテインメント 富士重工業 本田技研工業 柳工業デザイン研究会

定価550円

雑誌 23704-3/25
Ⓛ-2001/1/1

T1023704030554

印刷　凸版印刷株式会社　製本　本村製本株式会社